

# いしづち

2016.1

No.108

公益社団法人 愛媛県建築士会  
<http://www.ehime-shikai.com>



新年あいさつ  
故きをたずねて 興隆寺 二王門と本堂  
しつらひ 『しつらひ』の景色 (2)  
竹のはなし 内子座との縁(えにし)

1	新年にあたって思うこと	会 長	寺尾 保仁 ……①
2	故きをたずねて 第4回興隆寺 二王門と本堂 (西条市丹原町)	文化財・まちづくり委員会委員長	花岡 直樹 ……②
3	しつらひ 第8回『しつらひ』の景色 (2)	松 山 支 部	東 優 ……③
4	光のはなし 人口照明と誘虫性について	宮地電機株式会社 照明・LED担当室	田部 泉 ……④
5	竹のはなし 内子座との縁 (えにし)	山 田 竹 材	山田 清昭 ……⑤
6	自然と家とにんげんと 化学物質過敏症と住まい	今 治 支 部	橋詰 飛香 ……⑥
7	夢・現 隠れた秩序	松 山 支 部	玉乃井公和 ……⑦
8	年男・年女	四国中央支部 新居浜支部 西条支部 今治支部 松山東部支部 松山支部 西予支部 宇和島支部	吉岡 毅 ……⑧ 宇田 昌史 ……⑧ 久保 敦史 ……⑧ 三村 雅信 ……⑧ 酒井 慶治 ……⑧ 日和佐公博 ……⑧ 曾我部 準 ……⑧ 森 昇平 ……⑧ 河合 優志 ……⑧ 丹生 多美 ……⑩ 冷川 拓也 ……⑩ 山内 真一 ……⑩ 櫻井 一博 ……⑩
9	全国大会 (石川大会) 報告 石川大会第6回青年フォーラムで感じたこと 全国建築士フォーラムに参加して 全国大会「石川大会」に参加して 石川大会に参加して 第6回「全国建築士フォーラム in 石川」地域実践活動発表を終えて	青 年 委 員 長 青 年 委 員 員 長 青 年 委 員 員 長 松 山 支 部 青 年 委 員	青陽 孝昭 ……⑪ 西森 勉 ……⑬ 和田 崇 ……⑭ 河野 行信 ……⑮ 村上征士郎 ……⑯
	一言感想 越智省二・白石公成・国字順一郎・野口雄司・元根衆三郎・吉武則幸・曾我藤夫 赤根良忠・大上恵子・小原文子・武内邦彦・二宮康史・山田宏・西岡こずえ・二宮初子		……⑰
10	支部報告 第7回いまばりのまちをつくろう絵画コンクール	今 治 支 部	曾我部 準 ……⑳
11	委員会報告 海南寺 (今治市宮窪町) 実測調査 調査文化財・まちづくり委員 若手建築士 (志) 交流会デビュー! In 山口 松 山 支 部 ソフトバレーボール大会報告 (優勝) 四国中央支部 四国中央支部 (最下位) 宇和島支部 宇 和 島 支 部 支部対抗ソフトバレー大会について 松 山 支 部 八幡濱港拓2015における子どもガイドの育成 女 性 委 員 異業種プラス防災意識勉強会報告 女 性 委 員 会 担 当 委 員 平成27年度 第25回全国女性建築士連絡協議会報告 女 性 委 員 長 全国女性建築士連絡協議会に参加して 宇 和 島 支 部		曾我部 準 ……㉒ 白石 萌子 ……㉓ 井原 誠 ……㉔ 亀岡 泰治 ……㉕ 渡邊 道彦 ……㉖ 真田井良子 ……㉗ 西浦 郁子 ……㉘ 大塚美由紀 ……㉙ 田中 明美 ……㉚
12	けんちくの輪 一步の勇気でつながる輪 少し立ち止まって振り返ってみようかな。	松 山 支 部 西 予 支 部	一之瀬佳緒理 ……㉟ 下元 美恵 ……㊱
13	お知らせ 第4回・第5回理事会報告 (お知らせ) 専攻建築士 (新規・更新) 登録申請受付期間、情報・広報委員会 編集後記		……㊲ ……㊳ ……㊴

# 新年にあたって思うこと

会長 寺尾 保仁



明けましておめでとうございます。

日頃は建築士会の活動にご参加 ご協力を頂きましてありがとうございます。

愛媛県建築士会も今年4月より いよいよ ヘリテージ養成講座を開始致します。また 行政協力の一環として木造耐震診断の診断事務所(技術者)の紹介業務、青年・女性委員会を含めた活動しやすい組織改革の検討など、社会貢献を視野に入れた活動を進め、ますます会の充実を図りたいと思っております。

昨年は 後半に杭データ偽装問題と建築界にとって耐震偽装以来の試練の年になりました。この件に関しては、技術的要素の問題より、現場の施工管理の体制の不備としか言いようのない事例であるように思います。

よく聞かれることですが、建築士会に入ってどんなメリットがあるんですかと、皆さんは建築士の会員としてこう聞かれるとどう答えられますか。私もいろいろと考えてはみますが、なかなかこれと言った答えが見つかりません。去年定期講習を受けました。その中で「倫理観を持つ建築士としての存在証明」という項目がありました。引用しますと、

“建築士は、常に倫理観を持って業務を行う職業人であることを自ら宣言すべきである。日頃の実績により、依頼者や周辺の人たちに好意をもって迎えられているこ

とや、倫理規定等を制定している団体に所属していることを示し、倫理観を持って建築士であるということから証明していくべきである。”

建築士会にも倫理規定を設けています。建築士それぞれが守ることとして「法令の遵守と品位の保持」、「知識および技能の維持向上」、「相互の信頼と協力」、等があります。

士会の会員である我々一人ひとりが常に職業倫理を考えながら、自らを律する努力と姿勢をもち続けることで建築士会全体の倫理意識の向上になってきております。CPDや社会貢献活動のデータの蓄積もおこなわれ、これらの倫理観をもつ建築士の存在を証明する活動が、建築の現場から倫理観の乏しい人たちの退場を促すことに繋がっていきます。これこそが建築士会のメリットではないでしょうか。

一人では行動範囲も限られてきます。情報量も限られてきます。会員相互が切磋琢磨して業務にあたれば、個人の能力以上のことができるでしょう。

今年も皆様のより一層のご活躍を祈念致します。

## 第4回 興隆寺 二王門と本堂 (西条市丹原町)

故きをたずねて

西山興隆寺は、西条市（旧丹原町）古田の静かな山あいにあります。四国霊場の札所ではありませんが、真言宗醍醐派の別格本山で、多くの参詣者が訪れます。紅葉が美しいことでも有名で、特に季節には多くの人で賑わいます。

まずは二王門。駐車場から山道の石段を登り始めたところに建っています。三間一戸の八脚門で総檜造り、細部は美しい彫刻で飾られています。大正9年の(1920)完成で、この彫刻は長州大工の門井友祐が手掛けました。長州大工については当委員会が長年調査、研究を続けてきました。山口県の周防大島から出稼ぎでやってきた大工のことで、愛媛県下では南予を中心に多くの作品が残されています。この二王門は東予地方での数少ない作品として注目されています。(また後に取り上げてご説明します。)



二王門全景

次に本堂です。現在の本堂は、文中4年(1375)に再建されたもので、国の重要文化財に指定されています。桁行5間、梁間6間、一重のお堂で、軒が深く屋根も大きくどっしりとしていて落ち着きを見せています。屋根は桧皮葺、柿葺、瓦葺、茅葺きと姿を変えてきましたが、昭和11年(1936)の大修理の際、当初の桧皮葺を偲ばせながら、火災予防の目的もあって現在の銅板葺に改められました。一見方形屋根のように見えますが、実は寄棟造。頂部をよく見ると、短いですが棟を確認できます。柱はすべて円柱で、外部の組物は禅宗様の出組み、花肘木付き双斗(ふたつど)で、正面の中備にのみ臺股が使われています。和様の中に禅宗様を取り入れた折衷

文化財・まちづくり委員会 委員長 花岡 直樹

様で、室町時代の様式を伝えるバランスのいい建築といふことができます。

さて、古い建造物を守るには大変な苦勞が伴うことはお察しの通りです。通常考えられる雨漏り、木部の風食による腐朽、蟻害、地震による外力などのほかに、「動物」による被害もあることを忘れてはなりません。中のお供え物を狙ったり、小屋裏をねぐらにするための進入を防ぐのも大変ですが、興隆寺ではもうひとつ大きな被害が……。写真は本堂の側面の板壁の「キツツキ」によって開けられた穴です。開けられた穴を板でつぶすとそれに止まってすぐ上が開けられます。いたちごっこならぬ「キツツキごっこ」と言ったところでしょうか。進入のためならひとつ開ければいいので、どうやら目的は他にありそうです。



本堂全景



キツツキによって開けられた壁の穴

## 第八回 『しつらひ』の景色(2)

松山支部 東 優

四季の変化にとんだ国、日本。幸せなことに私たちは、春夏秋冬それぞれに美しい自然を近くに感じて暮らしています。時折厳しい暑さや寒さもありますが、心地よく暮らせるように、素材や技術、知恵と工夫で、先人たちは昔からずっと『暮らしの器』を整えてきました。

蝉の声にあふれる夏。両親と一緒に訪ねた祖父の古い家。まだ小さかった私の夏の記憶です。夏用にしつらえられた和室は、襖は簀戸に入れ替えられ、風がすう〜と抜けていく感じ。畳の上に籐むしろ。歩いて冷たくて、ころころ寝転がっても気持ちいい感触。(ちょっとくつろいで寝れば、顔にその跡がついて、ちょっと恥ずかしい・・・)庭の池の水面が風に揺れ、差し込む光が、長くのびた軒裏にゆらゆらと反射して、その動きの美しいこと！涼しげなガラスの器のかき氷を手に、ほっと眺めていた記憶。

夜になれば蚊帳の中。なんとも籠り(こもり)感があり、落ち着きます。パタパタゆすって、ササッとその中に入る…小さかった私にとっては、蚊を入れないようにして自分が蚊帳に入ることは、それ自体がドキドキのミッションでした。端の紐を部屋の隅に結ぶと現れる涼しい麻布の景色は、夏の眠りの結界だったのです。そんな夏の『しつらひ』の記憶は、感動の風景として私にとって大切なものになっています。



残念ながら、一年中快適に過ごせるよう整えられた現代の住宅では、伝統の『模様替え』を大きなスケールで楽しむことは少なくなってきています。取り替えられた建具をしまふ蔵とか大きな納戸とか、そんな収納空間もなく、取り替える手間も時間もないのです。否応なく合理的になっていく中、伝統の『しつらひ』の素材やスタ

イルを見直し、その魅力を少しでもいまの暮らしに取り入れていければと思います。

すだれやよしず、い草の敷物や座布団、麻布の暖簾。部屋の隅に準備されているうちわと昔懐かしい蚊取り線香、打ち水、涼しげに風に揺れる風鈴・・・水を感じ、風を感じる工夫を重ね、日々の暮らしの中の些細なこと、食器や料理、飾る花の色や形に心を配ることも、『しつらひの』の景色をすることではないかと思っています。

伝統素材の畳、塗り壁、そして木。その表情のやわらかさ、自然素材と手仕事のあたたかさが寛ぎの仕上げには欠かせません。畳や塗り壁は、その色や仕上げの種類も豊富にあります。木の加工の“なぐり”や“うづくり”は、光により陰影や素朴な表情生みだします。現代の家具やキッチンの仕上げにも取り入れられています。

障子や欄間の繊細な組子は、照明器具やパーティションにも用いられ、様々な空間をモダンに彩っています。



紙、ガラス、漆、柿渋も同じく。気品に溢れる和紙。障子や襖はもちろん、壁の仕上げや照明器具にも幅広く使われます。漆は「漆器」としての美しさに加え、耐水、補強のための建材塗料でもあり、柿渋は、防水・防腐などもかねて木や布、紙などに染料や塗料として使われてきました。そんな伝統の素材は、それぞれを巧みに組み合わせ、今の暮らしの道具や住まいに使われています。

『しつらひ』の風景、こちよい『ヴィンテージ感』として、いまの暮らしの意匠に感動を繋いでいます。

# 人工照明と誘虫性について

光のはなし

人は日常生活において夜間の照明はなくてはならないものです。動物や植物においても非常に大切です。時に、照明の光に虫が集まり不快を感じる場面も多くあるのではないのでしょうか。快適に過ごすために少なからず光に注目して、なるべく虫の寄り付きにくい光がないかと感じる場面もあるかとおもいます。

環境庁大気保全局が良好な照明環境を実現するには、

1. 照明の目的・必要性の確認と安全性の確保 2. 光害の防止 3. 地域レベルでの「良好な照明環境」の実現の3段階に分けて進めている。

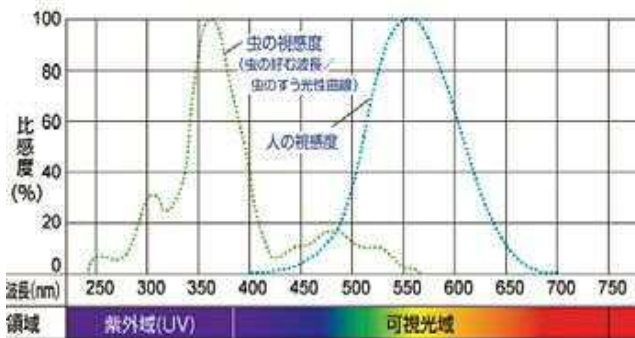


図1. 人と虫の視感度曲線（岩崎電気参照）

より良質な生活をするためには虫の寄り付きを少なくしたい。図1の「人と虫の視感度曲線」を見ると、一般的に虫の種類にも違いがありますが、虫は波長340～380nmの紫外線の白っぽい光（色温度が高い）や、より明るい光に集まりやすい傾向がある。

その紫外線をカットすることで寄り付きが少なくなる。図2.「各種光源の色温度、演色性、誘虫性比較」を参考にすると誘虫性が少ない光源は、1.LEDランプ（電球色）2. LEDランプ（白色）3. 蛍光灯（電球色）4. 白熱電球 5. 蛍光灯（昼白色）になっている。

宮地電機株式会社 照明・LED 担当室 田部 泉

これは、実験をして得たデータであるが、本当にこのような結果になるのか疑問で2007年7月に最寄りの山の麓に行って検証をした。

光源の種類	色温度 (k)	演色性 (Ra)	誘虫 (%)
白熱電球	2,850	100	100
蛍光灯電球色	3,000	84	80
蛍光灯 昼白色	5,000	84	118
LED 電球色	3,000	80	10
LED 白色	4,200	80	17

図2. 各種光源の色温度、演色性、誘虫性比較（参照「照明と生物」）森田雅明 洞口公俊

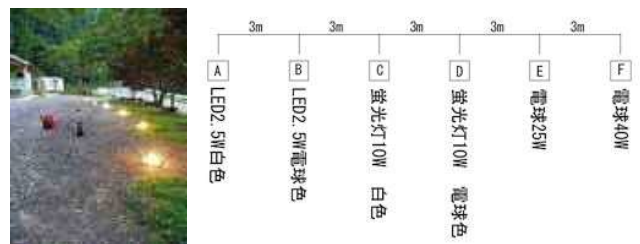


写真1. 実験写真 3m間隔の各光源

検証結果、誘虫性が低い順番は、1. LED2.5w（電球色）2.LED2.5w（昼白色）3.白熱電球25w 4.白熱電球60w 5.蛍光灯（電球色）10w 6.蛍光灯（昼白色）10wでした。

電球と蛍光灯（電球色）が逆転でしたが、そのほかは順番通りになっていました。

LED照明には紫外線が少ないので誘虫性が低く、電球色の色味が温かくなるとより誘虫性が低くなる。また、白っぽい光ほど誘虫性が高くなり虫の寄り付きが多くなる。

参考に一般的は、虫の誘虫性が高い条件は、1. 紫外線340～380nm 2. 二酸化炭素 3. 温度（体温）などの条件があります。

# 内子座との縁（えにし）

山田竹材 山田 清昭

私が脱サラし、家業に就いた昭和 57 年、内子町八日市・護国地区の町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。それに伴い、対象の建物は次々と修復されていくことになる。

その保存地区外となる商店街の中ほどに、廃墟と化しながら鎮座していた内子座もこの機に併せて修復となり、同 58 年、往時の姿に戻されていくことになった。

修復には、壁下地や竹垣などに使用される竹材の依頼が入り、納品することになるのだが、思えばここから内子座と私の縁（えにし）は始まっていたのだった。

同 60 年、修復を終え、娯楽の殿堂復活となった内子座は、早速数々の公演やイベントが催され、活況を浴びていくこととなった。

その頃、地元の商工会青年部に所属していた私は、当時の内子町・五十崎町・大洲市の同輩たちとのコミュニケーションの中で、「内子座に芝居を呼んで盛り上げよう！」と思案が上がり、「内子座社中ふれだいいこ」という企画集団が発足された。同 62 年のことである。

メンバーは、建設業・タクシー業・旅館業・雑貨商・酒店・薬店・和紙職人、そして竹材業の私にも声が掛かり活動に加わった。異業種の若旦那衆となった背景には、そもそも資金がないことから運営において、その専門職が大いに役立つだろうという発想からであった。

その思惑通り、公演にかかる機材、送迎、宿、飲食、文具雑貨などの調達や賄いができ、運営の一助となった。私の竹屋としての役割はといえば、舞台道具での材料、幟の竿ぐらいであったが、それらは黒字公演とならない限り、無報酬となるのだった。

それらの活動は、地元の人たちから「町おこしに貢献し、見上げたものだ」と称賛を浴びたが、それが負担になり去っていくメンバーもいて、もう趣味のサークルを超えた道楽三昧の活動でもあった。余談だが、あるとき当時の町長から「みんなよく頑張っているから助成金を出そう」と話を持ち掛けてもらったが、丁重に断った。

理由は、それを頂くと一生懸命にチケットを売らなくなる恐れがあったからだ。チケット販売は辛いノルマであり、その成果いかんによって入場者数が左右する。正に道楽を堪能したいが故であった。

メンバーの中に和紙職人がいたことから、公演ポスターを版画で作ろう、と話が盛り上がり、絵心のあった私が版画作りを担うことになった。版画といっても小学校のときに習った知識しかないものだから単純に考えていた。

しかし、いざ制作に入ると大変な作業であることに気が付き、そこから試行錯誤の末「シルクスクリーン」という技法で、自己流ながらまともな版画ポスターが仕上がるようになっていった。

こうなってくると私のポジションは、竹材供給の立場からポスター制作担当へと責務が明確化していくことになるのだが、毎回自由な表現で任される中、生み出していく我が分身（ポスター）に喜びを感じ、無報酬だから伸び伸びと気ままに制作していくことが出来た。



「内子座社中ふれだいいこ」公演ポスター 内子座で何度も舞台を踏んだ悪役商会の八名信夫さん（山田竹材にて・平成 7 年）

内子座での公演はというと、回を重ねるごとに役者さんやスタッフとの交流が多くなり、その口コミやつながりで多岐に富んだ公演を開催していった。

そのように地域に根差した活動を展開していった「内子座社中ふれだいいこ」は、平成 21 年に 22 年間の役目を終え、活動を閉じた。

現在私は、竹産業衰退の憂き目の中、竹材業と、内子座と竹の縁で培った画業との、半分半分の時間に身を置き、いいバランスで生活を送っている。

# 化学物質過敏症と住まい

今治支部 橋詰 飛香

新建材を極力つかわない昔ながらの家を手掛けるようになってから事務所のカタログ棚はすっかり省スペースとなりました。必要なのはカタログではなく職人さん達の確かな技術力と知恵である。アレモコレモは必要無い。その潔さがカタログ棚にも顕れていて気持ちいい。

さてつい先日、化学物質過敏症者の家が完成を迎え、CS(※)限定での見学会を初めて開きました。その造りは伝統構法による家づくりです。県内外からも化学物質に苦しむ過敏症者さんが体感に来られ、私設計者にとっても多様な物質に反応する過敏症者さん達の厳しい意見をいただく機会とさせて頂きました。



(木と土の家の空気質の良さにマスクを外し長時間見学をするCSさん達)

CSにとって避難場所である安心できる住まい(空間)の確保は最重要課題の切なる願いですが、その実現は容易な事ではなく多くの過敏症者さんが露頭に迷っているという現状です。

以前はCSと聞くと、正直「出来れば関わりたくない・・・」恐い領域の世界でした。そして昔ながらの家づくりを手掛け始め、自然素材での安心できる家づくりの為に奔走していた頃、建て主となる過敏症者さんと出逢いました。安心できる家を提供したく苦戦している側と、安心できる家が欲しくて苦戦している側。その想いとそれを得る困難さが同じベクトルでした。それが今まで化学物質過敏症というものを恐れ多い領域に封印していた自分自身の封切りとなりました。

荒壁につかう藁一つとっても無農薬のお米の需要が少ないなかで”安心できる藁”は皆無であり、その藁探しに奮闘していた建て主さん。そして私は安心できる衣食住を見つめ、自分達が食べるお米を無農薬栽培で挑んでいた矢先の事。『食』の無頓着さは、そっくりそのまま『住』

に繋がります。『安さ』だけが追い求められその安全性は二の次三の次・・・いやいや、全くの無関心・・・。利益を得るためであれば人の健康など知らんぷり。添加物オンパレードの食品に人への思いやりの欠片は感じられるだろうか。『食』の現状はそっくり我々の『住』の現状のようです。

シックハウス問題は、国からのガイドラインによりVOCの規制とその指針値が出され、問題は一見沈静化したかの様でした。しかし国から出された指針値以下でシックハウスを発症する人が依然としているのは事実です。しかも指針値以下の曝露による体調不良はシックハウスと化学物質の因果関係を見えにくくしたのと同時に、化学物質を使用する企業サイドに都合の良い抜け道をつくったと言えます。私が関わった患者さんのなかでも告発したくとも「VOCは国の指針値以下である」という隠れ蓑により泣き寝入りさせざるを得なかった話があります。裁判で体調不良と原因物質との因果関係を被害者サイドで証明することは全くもって不可能です。

さらに規制VOCに替わって『新たな代替VOC』の使用は、シックハウスやCS救済の抜本的解決にはなっていないはず、これではいつまでたってもイタチゴッコ・・・。要するにこれは『食』と同じモラルの問題では?・・・と、すっきりしない気分です。じわじわと健康を害していつて病気になった先に、家が悪いのか食べるものが悪いのか、はたまた分からないぐらい悪い物だらけの社会・・・。そんな社会は許せますか。

人が一日に体内に取り込む物質のなかで一番多いのは、食べ物や水が1~2kg/日に対して『空気』は15kg/日もあると言われていています。また子供や赤ちゃんは更にそういった化学物質の影響を受けやすいです。

目に見えないものに感心を寄せていくべき時代。原発にしる、空気の質にしても然り。表面的な建て前での安全・安心はもういいです。私達の便利な暮らしを支えるために増え続ける化学物質に警鐘を鳴らし、真の豊かさの追求というものを語りあうべき時代ではないかと・・・。多くを求めず、安心して住まうことを一番に、心豊かに心地よく、家族みんなが健康であればそれが一番いい。化学物質過敏症者の住まいを手掛けて強く感じる事です。

大きく欲張りになりすぎた建築に、疑問を感じます。この疑問から、また私の新たな建築がうまれるのかもしれない・・・。さてさて年末の大掃除で我が家のカタログ棚は、今年はどれだけ片付くでしょうかね。

※CS・・・化学物質過敏症 (Chemical Sensitivity)



## 隠れた秩序

松山支部 玉乃井 公和

多様であること。それがこの世界に在る、ありとしあらゆる「かたちあるもの」の有り様であることは、例えば私達人間を見てみただけでも分かります。様々な色や言葉を持った人種と共に、同じ人種の中でも、それぞれに顔も心も誰一人として同じ人はいない。

顔かたちとしても心としても、それぞれに個性を持って在るということ。つまりは多様性が、この私達が在る世界の原則としてあるのではないのか、ということがこの“一例”からだけでも見て取れます。

そうすると次には、この世にたった一人きりのその個性が、人それぞれに与えられた、かけがえのないもののように見えてきます。つまり私達には「十人十色」ならぬ「億人億色」のかけがえのない個性がある、と。

ただ、「個性を生かす」だとか「個性の重視」といった言葉の尻馬に乗って、その“個性を生かすことを重視”し過ぎて、皆がそれを特権のようにして主張し始め、その個性のすべてを満足させるとなると、たとえこの世界が“多様性を原則とした世界”であったとしても、それは先ず不可能な事であり、仮に満足させることができたとしても、そこに現出する世界は、殆んどカオスの状態になって納まりがつかなくなってしまうのではないかと想像されます。

かと言ってその反対の、個性を持ちつつも皆それをあまり主張しない、或いはできない、のっぺらぼうで顔ナシの、没個性の群れの世界というのも、たとえそれが見た目の納まりが付いていたとしても、今度はそれは、全く面白味のない世界、または恐ろしい世界になってしまうような気がします。

そうすると、個性を生かしつつカオスの状態にも、顔ナシの群れにもならないようにするためにはどうすればいいのか、ということになります。それにはやはり多様な個性が、それぞれに自由な表現ができることを一番の前提とした上で、そこにそれぞれの“自由”を調和させるための、「隠れた秩序」のようなものが必要になってくるのだらうと思います。

そしてその「隠れた秩序」となるものには、ある普遍性や不変性を持っている必要があるのではないかと思います。

では、そうした「隠れた秩序」となり得るものにはどういったものがあるのかと考えてみれば、例えば社会という人間の集団であれば、道徳、或いはそれを下支える宗教のような、かたちのない「目には見えない秩序」になるのだらうと思います。(法律等は、目に見える形の「顕われた秩序」になるのではないかと思います。)

そして、これは手前味噌になりますが、それが町や街という建築の集団であれば、私は自らの建築設計の「主題」としております「縁」(かかわり、つながり、作用)というものが、有効な「隠れた秩序」の一つになり得るのではないかと、“秘かに”思っています。

手前味噌ついでに、その「縁」の有り様にはどのようなものがあるのかと言うと、例えば郊外にある一つ一つ

の住まいや、街中に建つビルのそれぞれが、空間的・デザイン的な個性を主張しつつもそこに、道行く人や街を行く人に対して、「どうぞご覧下さい」といった、人と人、人と建築とのかかわりやつながりを、その外部空間に設えてみる。その「思いの意志表示」を試してみる、ということが考えられるかと思えます。

一言で言えば、「縁空間」を設えてみる、ということです。そしてこうした「隠れた秩序」から、人に優しい町並みや街並みが生まれ得るのではないかと私は想像しています。

このような「隠れた秩序」的な視点から、現状の町や街を見つめてみれば、それはカオスの状態ではないにしても、ただ没個性や表層的個性が、何のかかわりもつながりもなく並んでいるだけ、といった感じに見えて、あまり面白味のある町や街ではないように私の目には映ります。

現状の町や街の感想ついでに、今に残る古い町並みについてもその印象を書いてみれば、古い町並みには、自然の素材で統一された、或いは統一するしかなかった「顕われた秩序」と共に、ヒューマンスケールの道の広さや建物の大ささ、或いは雨宿りなどができる軒下空間などに設えられた、無意識の「縁」、即ち「隠れた秩序」も、そこには織り込められてあるように見えます。

この両方の「秩序」があることにより、私達は古い街並みに懐かしさや安らぎを感じるのではないかと思います。

個性を生かし、個性を重視しつつも、そこに調和のある町や街を生み出すこと。

そのためには目に見える形の「顕われた秩序」だけで統一するのではなく、「隠れた秩序」、先の「縁」で言えば、「かかわり合おう」「つながり合おう」とするその「思い」のようなものを織り込んで「統一」をすれば、そこにまた新しいかたちの町並みや街並みを生み出すことができるのではないかと私は思っています。

もしかすると建築設計の本質とは、目に見える形を作ることではなく、目には見えない「隠れた秩序」、或いは「思い」という、かたちなきものをそこに織り込むことではないのか、と思ったりします。

言い換えれば、敷地や施主の要望、予算等の、与条件の“個性”がその都度、さまざまに違っている、私達設計者がその個性を生かしつつそれぞれに、自由で豊かな建築の表現をするためには、かたちのない「隠れた秩序」や「思い」からの発想が必要なのではないかと思います。

一言で言えば、「はじめに形ありき」ではなく、「はじめに思いありき」、ということです。

そして、そうしたゆるやかな統一からなる町や街が現出できたとするならば、それは“多様性を旨”としたこの世界の、本来あるべき“自由と調和”の高度な表現になるのではないかと、私は“理想”しています。

# 年男・年女の抱負

## 美しい建物を求めて

四国中央支部 吉岡 毅

何回目の年男を迎えたのか定かではありませんが、建物の設計を始めて半世紀近く経ちました。未だに解らないことが多く日々努力中です。昨今、建築のテクノロジーには驚嘆しますが、美しいと感じた建物に出合ったことがありません。古い建物にしる新しい建物にしるありません。むしろ建物不感症ではあるまいかと心配です。今年こそ「美しい建物」に出合うべく旅行に出たいと思っています。皆様のそれぞれの幸を祈念致します。

## 申と木に因んで

四国中央支部 宇田 昌史

皆様新年明けましておめでとうございます。本年は申年。申と言えば動物の猿を思いますが字が違うだけで特に意味はないそうです。さて猿は木登りが得意で常に木と一緒にイメージがあります。そこで年男の抱負と致しまして木材の良さをもっと世の中に浸透さそうと思えます。私の父は年輪の数だけ家は保つと常に言っておりました。現在私共は建設業を営んでおりますが社業の基は製材業が始まりでした。先代からの木材に対する思いは熱いものがありました。それが遺言のように私の後支えとなりました。また後継者及び担い手不足等業界を取巻く問題があります。これからは次世代の育成に力を尽くそうと思っております。最後になります。建築士会及び業界が発展する事を祈念しまして、本年48歳を迎える年男ならぬ申男の抱負と致します。

## 還暦を迎えるに当って

新居浜支部 久保 敦史

還暦とは、親や年寄りのものとばかり思っていたのですが、普段の生活を振り返ると躓いたりよるけたりと年を取ったと思うことばかりで、もうそういう年なんだと

つくづく痛感しています。

又、少し前までは60才といえば定年退職し年金生活で悠々自適な生活を想像していたのですが現実では程遠いものがあります。

今更、何を言っても始まらないので、多くの方々の支えで無事働いてこれたことに感謝しつつ、少しでも恩返しができるよう人生の後半戦を仕事や趣味に精進していきたいと思えます。

## 還暦を迎えて

新居浜支部 三村 雅信

現在私は、建築の仕事に携わり、早いもので、還暦と言う節目を迎える事になりましたが、実感は、ありません。

まだまだ年下の後輩と同じ感覚で、仕事をこなしております。ただ、体力的な衰えは、確実に来ている様に思えます。

しかし、仕事は出来る限り続けたく、今後の課題として、これからの将来、後輩がどのように育って行くのか、指導・アドバイス又、私の今までの経験を伝え、会社・業界が、より発展していく様にするのが、少しオーバーですが、今後私の使命であり、仕事の一環と考えております。

今私に、『何が出来るのか、何をするのか、何を残せるのか』が、これからの私の人生において、意識することだと思えます。

あせらず、健康で、ゆっくりと楽しみながら歩んで参りたいと思えます。

## 年男を迎えるにあたって

西条支部 酒井 慶治

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

振り返れば、建築設計の道へ進もうと思ったのが、高

校2年の時。その後、専門学校へ進学、神奈川県的设计事務所、建設会社、地元の工務店勤務を経て、現在の设计事務所を開業しました。ただ、がむしゃらに建築の道を行って歩きましたが、おかげさまで本年、開業11年目を迎えることができました。

これまでは、目の前の業務をこなしていくのが、やっとでしたが、昨年、建築士会の全国大会に初めて参加させて頂いたことによって、視野を広げることができたように思います。

今年の目標は「地域へ貢献」「何事にも挑戦」です。その第1歩として、愛媛マラソンに初出場します。完走目指して頑張ります。

## 年男らしい

周桑支部 日和佐公博

私は今年年男であるらしい。48歳ではそんな事は無頓着だ。

建築士会にも25年来お世話になっているが、ほぼスポーツイベント要員の幽霊会員である。

昨年の支部対抗レクバレー大会に出たが、以前では出来ていた事が出来なくなっている…

50歳手前なんて昔は完全にオッサンと思っていた。まあオッサンである事には間違いないのだが、『元気に動けるオッサン』を目指し、体を壊さず、鍛え、頑張っていくと思う。

## 本当に大切なものを見極める一年に

今治支部 曾我部 準

新年あけましておめでとうございます。「四十にして惑わず」などといわれますが、4回目の年男を迎えてもまだ迷いっぱなし。もうブレブレです。もっと依って立つものを持った大人になっていると思っていましたが、人生そううまくはいかないものようです。いろいろなものに挑戦していますがまだ花が咲いたといえるものはあ

りません。かえって手を広げすぎたかと反省すること頻り。今更ではありますが、ここらで自分を見つめなおして本当に自分に必要なもの、大切なものを見つめなおす一年にしたいと思います。こんな私ですが今後ともよろしく願います。皆様にとっても素晴らしい一年になりますように。

## 早や還暦!

今治支部 森 昇平

新年明けましておめでとうございます。

昨年末、高校以来の友人から「来年は還暦なので、新年早々に同窓会に出て、みんなの定年後の抱負を聞こう」と言われ、定年という言葉にとっても違和感を感じました。

独立し、まだ2度目の事務所登録の更新年で、「よくもったな!」と、感謝の思いと、「これからが大変!」との思いを新たにしたばかりでした。世間的には人生の一区切りの時期なのに、自分はまだまだ悩みや迷いと日々向き合い、試行錯誤の毎日です。

これからも誠実にじっくりと、建築にも人にも関わっていきたいと思います。

もう少し仕事もしたいし、生涯現役を目標に、3度目、4度目…の更新に向け頑張ります。

## 仕事に追われるより、仕事を追かけたい!

松山東部支部 河合優志

平成28年自分が年男であることに、この原稿の依頼を頂き改めて気付きました、完璧に忘れていました、ヤバイです。前回、前々回の年はどんな年だったろう? 思い出しますが24歳の年は結婚がありましたが、36歳の時は・・・記憶がありません、ヤバイです。もう30歳以降は惰性であっという間に年月が流れて転がり落ちるように4度目の年男になってしまった訳ですが、この調子でいくと5度目の年男に“あっ”という間になってしまいます、そろそろ仕事に追いつけられる状況

から、「仕事を追いかける」状況を築かねば。それが今年の抱負でしょうか。実のところ、毎年年初に思うことなのですが、“年男”としての節目、この文面をお借りして改めてここに宣言?したいと思います!では。

## 年女を迎えて

松山支部 丹生 多美

早いもので今年の2月で建築士として丸8年を迎える私ですが、建築士としての経験を積む程にこの仕事の奥深さ・難しさを感じています。2005年春に修士課程を修了し、帰郷して就職しましたが、今日まで本当に周囲の皆様のおかげでやってきました。そんな日々の中、近年は何か特化した知識・技術を身につけたいと思うようになりましたが、候補が拳がっては消えを繰り返し、自分の意思の弱さも加担して今ひとつ足が進んでいないのが現状です。そんな未熟者の私ですが、本年もお施主様と向き合い、多くの事を学ばせていただく事で、自分なりの答えが出せたらと考えています。そして微力ではありますが、同業者の皆様と一緒に業界を支えられるように努力して行きたいと思っております。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

## まだまだこれから

松山支部 冷川 拓也

新年あけましておめでとうございます。早いもので私が生まれて36年が経とうとしております。社会人としての36歳は、一般的には中間的な管理職の立場にある方が多い年代だと思えますが、私は建築士としての経歴がまだ5年余りしかない若輩者であります。微力ではありますが、これからも愛媛県の建築業界の発展に寄与すべく、何事にも積極的に取り組み、建築士として充実させるべく精進する所存であります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

## 目標をもって

西予支部 山内 真一

新年明けましておめでとうございます。

今年でなんやかんやで4度目の年男。あつという間の48年ですね。

過去を振り返り、成人になってから人生の中で目標をもって達成してきた事といえば、結婚(運良く)建築士になる(泥沼からの)マイホームを建てる(勢いで)など何とか達成。さて次の年男までの目標(お願い?)は、新車に乗る、スペイン・イタリア旅行に行く、孫を抱っこする。こんな感じでしょうか。これからも目標を持ち尚且つ、娘に嫌われないよう格好良く歳を重ねていきたいと思ひます。

## 年男

宇和島支部 櫻井 一博

新年明けましておめでとうございます。

働き始めてはや14年。右も左も分からなかったあの頃、恩師に言われた『建設業は誤れば人の命を一度に沢山失ってしまう仕事』と教えて頂きました。現在もその言葉が頭から離れません。今は現場代理人をさせて頂いておりますが、お施主さまの想いを、より安全に、理想のかたちにしていけるこの仕事に喜びを感じています。家族には夜遅かったりで、なかなか時間が合わないこともありますが、嫁、子どもたち、また、両親、祖母が私が携わった建物を見て、喜んでくれている姿、長女が『お父さんみたいに建物の設計がしたい』と言ってくれるので、まだまだお父さん頑張らないとっ!次回の年男に何を想っているのか。12年後の自分がよくやったと思える年初めにしたいと思ひます。

# 第58回建築士会全国大会 （石川大会）報告

開催日：平成27年10月30日（金）  
会 場：石川県立音楽堂（石川県金沢市）  
参加者：70名（本会ツアー45名、支部・個人ツアー25人）

今治支部の吉武則幸さんと松山支部の武内邦彦さんが平成27年度連合会長表彰を西条市社寺建築大工、曾我藤夫さんが平成27年度伝統的技能者表彰を受賞され

ました。  
おめでとうございます。  
前日の10月29日（木）には青年委員会主催、第6回全国建築士フォーラムにおいて、中四国ブロック代表として松山支部の西森勉さんが青年委員会実践活動「とびだせ建築士～未来へつなぐ～」を発表し優秀賞を受賞されました。青年委員のみなさん、おめでとうございます。

## 石川大会第6回青年フォーラムで感じたこと

青年委員長 青陽孝昭

今回で四度目の参加となった建築士会：全国大会石川大会は小生にとって大変思い出深い大会となりました。

思い返せば平成21年に入会し、年度末の今治支部青年委員会の場で当時の委員長より、来年度は青陽くん今治支部の青年委員長お願いしますと言われ、県青年委員会の次期の方々との懇親会に参加させて頂いた。その場で支部活動を話す機会があり、こどもたちを対象とした絵画コンクールの事を話すと、来年の発表よろしくと言われ・・・訳が解らないまま発表資料を作成し（ほとんど山田宏さん大塚美由紀さん森川晴喜さんが）翌年22年に開催された、青年・女性建築士の集い中四国ブロック島根大会にて地域実践活動報告を発表したのでした。結果はブービー（苦笑）

ブロック大会参加も初めてで、優秀とされる報告が全国大会で中四国ブロック代表として発表し、最優秀・優秀と表彰されている流れを実感しました。大胆にも翌年も小生に報告をさせてもらえないかと青年委員さんたちに相談させて頂き、その翌年のブロック大会にて最優秀を頂いたのだが、東日本大震災で全国大会大阪大会は中止となった。

翌24年の全国大会茨城大会で、連合青年委員の計らいにより大阪大会で報告するはずだった我々にもチャンスが与えられました。小生にとっての全国大会初参加で、第3回青年フォーラム（地域実践活動報告会）参加である。このフォーラムは連合青年委員によって企画運営されているのだが、報告の手法などシステムの構築が今ほどされていなく、発表報告要項も質素なもので、フォーラム会場に発表報告ポスターに参加者が投票、翌日の分科会でのワークショップは優劣には関係のないものであった。

茨城大会では、発表報告をしたり、24・25年と愛媛にて青年副委員長をさせて頂いたことから、全国の青年委員長さんとも話す機会に恵まれ、このフォーラムの

問題点など話あい25年全国大会島根大会に活かされ、現在の運営になってきたと思っています。（幸いなことに25年が中四国での開催+当時の中四国連合青年委員が現在の青年委員長）島根大会での青年フォーラムでは、中四国の青年委員長・副委員長が連合委員長とで運営を行った。第4回青年フォーラムでは、各ブロックの発表後にワールドカフェ方式ワークショップで発表者に質疑応答などを行い投票

長野県迫支部が最優秀

限界集落に士会メンバーが核となりまちづくりを行っている・・・的な発表で、圧倒されるほどのプレゼンであった。（発表者：市議会議員で建築士会員）

翌25年全国大会福島大会での第5回フォーラムは基調講演を行い、そのあと各ブロック発表のちワークショップそして投票

基調講演は、空き家対策の話で、近畿ブロック京都士会

空き家対策に関する発表が最優秀

三度の全国大会を経験し青年委員長の職を預かり、全国青年委員長会議「未来への架け橋」にも参加させて頂きいろいろな経験をするなか、我々愛媛建築士会：青年委員会もなかなか、いけるんじゃない？！

て思うようになってきました。



（WSでの西森さん河野さん）

今年最初の青年委員会で、次回のブロック大会で「とびだせ建築士」の報告発表をと提案させて頂き、寺尾会長からも激励の言葉も頂き、「とびだせ建築士」ネタで行くことになったのですが、・・・

発表者がなかなか決まらず、委員会の空気が悪くなって行き・・・ほんとに重たい空気が・・・

会では委員長が議長で僕が提案したものの・・・

いたたまれない気分で、トイレに逃げ込み、帰ってきたところで、

西森さんが「僕がします！」

って 天使に見えた瞬間でした。

つづいて、補助員は、村上さんがすんなり引き受けてくれて、中四国ブロック広島大会に向けて練る事となったのだが、僕の手違いで西森さん村上さんに多大な迷惑も掛けたのだが、この二人はもってましたね！

みなさんも御存じの通り広島大会で最優秀！

中四国代表として全国大会石川大会で発表することとなりました。

ブロック大会は5分の発表ですが、

全国大会では8分+ワークショップ

発表文章、パワーポイント、展示用ポスター、配布資料などの作成を日常の仕事の合間に作る負担を二人が、ワークショップでのファシリテーターに

和田崇さん河野行信さんが引き受けてくれ

最高のチームが結成され、石川大会に臨みました！

大会ツアー出発時には、参加者からチームにフォーラム後に慰労会の足しにとカンパまで頂き

また、フォーラムにも多く参加してくれました。

茨城では、僕含めてたった4人・・・(苦笑)

愛されキャラの西森さんにジェラシー感じたりして(笑)

大会での青年フォーラムの内容は、西森さん村上さんの記事で・・・

結果、優秀賞を頂きました。

本来なら西森さんが本大会にて表彰を受けるはずなのですが、彼から

「愛媛県建築士会青年委員会が賞を頂いたんだから、委員長が受賞式に出て下さい。」って言葉を真に受けて登らせて頂きました。今年で青年を卒業する小生にとって感無量の時間でした。

本当にありがとうございました。

#### エピローグ

全国的にみてこの地域実践活動報告では、支部単位の発表や地域で取組んでいる団体に建築士会のメンバーが参加して活動をしている内容がほとんどで、都道府県単位での青年委員会：青年部の活動報告は有りません。今回の受賞は多くの参加者がこの報告会での意義の様なものに内容と共に賛同してくれたんじゃないかなとも思います。

こんな事書くのはどうかと思うのですが、優劣は投票で決まり応援に駆け付けた単位士会参加者数に、単位ブロックから参加された数で左右されます。

僕にとって「とびだせ建築士」は最優秀だと思っています。

来年の中四国ブロック岡山大会には青年層の方々参加しようじゃないですか！

また、全国大会はお隣の大分大会！全国の活動を聞きに行きましょうよ。

拙い文章ですが

最後まで読んで頂きありがとうございます。

なんとなくご理解頂ければ幸いです。



〔西森さん発表者村上さん補助員〕



〔表彰式〕

# 全国建築士フォーラムに参加して

松山支部 西森 勉

みなさんこんにちは、坊っちゃんです！

坊っちゃん？という方もいらっしゃると思いますが、今回坊っちゃんの衣装に扮して、『青年・女性建築士の集い中四国ブロック広島大会（平成27年6月13・14日開催）』の地域実践活動報告会で優勝、全国大会（石川県）への出場権を獲得。その『石川大会（10月29日開催）』では優秀賞（2位）の評価を頂きました。



発表させていただいたその地域実践活動報告の内容とは、私たち青年委員が8年前（平成19年度）から継続事業としている『とびだせ建築士』についてです。この事業は地元高校建築科の生徒や専門学校の生徒を対象に、将来の建築士を育てると共に、我々建築士をアピールする活動で東・中・南予で毎年開催をしています。

この活動を全国大会に向けてもっとアピールできる様にと結成されたのが『チーム青陽』（青陽青年委員長・村上征士郎副委員長・和田崇松山支部青年委員長・マルマストリグの河野行信氏・アドバイザーとして森川晴喜元青年委員長）です。この最強メンバーで資料作りや大会ワークショップ対策を練りこみ、また資料作成の基盤となった士会事務局の協力を得て大会に挑みました。

全国大会では毎年発表方法が異なるようですが、今年は各ブロック代表が活動内容を発表し、その後ブロックごとに分かれワークショップを開催する方式でした。ワークショップでは、私と河野さんペア、村上さんと和田さんペアで全国の建築士からの多くの質疑に対応をしました。その時印象的だったのが河野さんです。冷静に

対応しながらも喋りだすと体が前へ前へと・・・横で見ていた私は『この人、熱いなー』と思いながらも頼りになる存在だということを実感しました。このワークショップでは今後の活動の参考になる意見をたくさん頂きました。

そしてワークショップから懇親会までを通じて一番多かった質問が『その衣装は、自前ですか??』（笑）といった内容でした。広島大会・石川大会共に坊っちゃんの衣装はとても好評だったようです。



今回、優秀賞を頂いたのは、この事業が次の世代へとつながるよう継続的に活動してきたことが評価されたのだと思います。県内の青年のみなさんが各地で活躍したことはもちろんですが、8年前に先輩方がこの事業を起こし、今日に至るまで引継がれてきたからこそその結果だと思えます。そしてこれから私たちはまた次の世代へつながるよう頑張ります。

今回この全国大会を通じて改めて愛媛青年の仲間同士のつながりが深まったことと思います。また全国の建築士から色々な意見を頂いたことでこれからの青年の活動がより充実していくことなど、本当にいい経験をさせていただきました。このような機会を与えていただきありがとうございます。



# 全国大会「石川大会」に参加して

全国（石川）大会報告

9

松山支部 和田 崇

10月29日～31日まで金沢市で開催された第58回建築士会全国大会へ参加しました。

古都金沢での全国大会ということで記念講演や街歩きなど魅力的なプログラムがたくさん組まれていましたが、私たち青年会員にとってのメインイベントは本大会にさきがけて10/29に実施される「全国建築士フォーラム in 石川」でした。

本大会のプログラムからは外れていますが、各地域の青年・女性建築士の地域実践活動報告会の優秀賞を受賞した支部からの発表者が集う、文字通りの全国大会です。

6月に広島で開催された中四国ブロック大会を勝ち抜いた我らが愛媛県代表の西森勉さん+村上征土郎さんペア。NHK・Eテレで放送されている「スーパープレゼンテーション」で学んだ西森さんのプレゼン能力の高さは全国でも通用するはずず。

広島大会の後、全国大会用の発表資料の提出までに少し猶予期間があったのですが、西森さんはより良い発表とすべく、一から内容を練り直すことにしました。

私たちの発表内容は「とびだせ建築士」。建築士会青年委員会の先輩方が8年前に始めた事業を現在も続けており、その継続性を売りにしています。昨年度松山市内の高校生を対象に実施した道後温泉本館見学会に因んで、広島大会では坊っちゃんの衣装で登壇した西森さん。全国大会も同様の衣装で臨みましたが、西森さんの勇姿を見て事務局の西岡さんは「立派になって、」と目頭が

熱くなったそうです。

毎日1時間以上、車での通勤時間を利用して、8分間の台本を暗記した西森さんの発表は兎に角素晴らしいの一言でした。

中四国ブロック広島大会の前日には様々な事情から発表自体を取りやめるか、といった危機もありました。

そこから持ち直しての全国大会優秀賞！微力ながら一緒に活動させてもらった者としてはこれ以上ないご褒美のように感じました。しかし、西森さんの顔には喜びの表情はありません。なんと彼は本気で全国大会での最優秀賞を狙っていたのです。思わず漫画・ガラスの仮面の名台詞「おそろしい子！」という言葉が心に浮かびましたが、それくらいの高い志がなければ、あのようなプレゼンテーションをすることが出来ないのだな、と勉強になりました。

最後になりましたが、県青年委員長の青陽さんを中心に、舞台上でも西森さんのサポート役を務めた村上征土郎さん、全国大会でのワークショップで皆に絶賛されていた河野行信さん、活動に協力してくださった皆さま、チーム青陽皆で勝ち取った優秀賞だと思います。お疲れ様でした。





# 第58回建築士会全国大会 石川大会に参加して

松山支部 河野 行信

私、河野は10月29日（木）、松山空港9：20発JAL2302便にて、金沢の地へ出発（ツアーのお世話をいただいた皆様、ありがとうございました）しました。なぜなら、第58回建築士会全国大会石川大会に参加するため。それも、青年委員会のメンバーとして、大会中行われる全国建築士フォーラム地域実践活動発表後のワークショップのテーブルコーディネーターとして、その任務を全うするためっ！（なんちゃって）

地域実践活動発表とは、青年建築士として魅力ある未来社会につながる各地域の活動を、全国7ブロックの代表単位士会がそれぞれ発表し、また全国に発信するものであります。（一番素晴らしい内容の発表には最優秀賞が贈られます）なお、愛媛は中四国ブロックの代表であり、発表内容は「とびだせ建築士」の活動についてです。

また、私にとって初めての全国大会。ワクワクドキドキの2泊3日となりました。

まず、松山空港から伊丹空港、そこからバスにて一路金沢へ。バスの中ではぐっすり……。のはずが、金沢が近づくにつれ、テーブルコーディネーターのことが気になって、手持ちの各資料を行ったり来たり。数日前に“チーム青陽”で集まって綿密な打合せを行い、気持ち的にも万全のはず、なのに……。

ここで、テーブルコーディネーターとは……。全国の、しかも初対面の皆さんとワークショップを行うときの進行役。ときには意見が出ないときの沈黙を破る勇気、ときには短時間で意見をまとめる瞬発的な頭脳、ときには長話する人を静止する（限られた時間なので）理不尽な実行力が求められる、私と対極の、例えるならば田原総一郎のような人。（かな？）

話の方向が相手次第というところもあるので、予想もしない方へ行っちゃったらどうしよう……。臨機応変が苦手な私……。

そんな状況ではあったのですが、“チーム青陽”の皆様が助けて頂き、何とか乗り切ることが出来ました！

特にステージ上での西森さんの地域実践活動の発表（カッコよかったですよ！）と村上さんのPC操作（絶妙なPCの画面操作！）が大変素晴らしく、勇気をもらいました。そして、和田さんや森川さんの強力なバックアップ、青陽委員長のリーダーシップ、まさに“チーム青陽”ここにありでした。また、応援に来て頂いた皆様、ありがとうございました。

結果は……。優秀賞（全国2位）！やりましたっ！

結果発表時の西森さんのガッツポーズ（写真）が忘れられません。

そして何より、「とびだせ建築士」の活動が全国の皆様に認めて頂いたことは、ありがたかったですし、今後の励みになります。私自身「とびだせ建築士」の活動歴は大変浅いのですが、こんな貴重な場に立ち会えるなんて、正直贅沢すぎですね。

「とびだせ建築士」に参画された歴代の皆様の積み重ねに感謝しつつ、これからも更に発展できるよう微力ながら頑張りたいと思います。

この度の全国大会、私にとって初めて経験することが多く、大変貴重なものになりました。また、様々な出会いがあり、特に全国の皆様と交流が出来たことは大きかったです。

また、来年もぜひ参加したいと思います！

ありがとうございました。



地域実践活動発表→

↓表彰式（ガッツポーズ）



↑ワークショップまとめ

←交流会



←近江町市場商店街  
（大賑わいでした）

海鮮丼→  
（迫力満点）



# 第6回「全国建築士フォーラム in 石川」地域実践活動発表を終えて

西予支部 村上征士郎

今回の私のミッションは、発表者である西森さんの軽快なプレゼンテーションに合わせてパワーポイントをタイミング良く正確に操作するということと、ワークショップ（WS）においてコンビを組んだ和田さんと台本なしのぶっつけ本番トークで、WSメンバーを飽きさせないコーディネートをすることでしたが、どちらも無事に終わることができホッとしています（笑）

今回他ブロックの全体発表でのプレゼンを聞いてみると、



〔ワークショップ〕

＜聞いていて眠くなるプレゼン＞

＜話引き込まれるプレゼン＞

＜ガツガツし過ぎて嫌悪感のあるプレゼン＞

様々なタイプがありましたが、自分がいざ仕事でプレゼンする立場になった時には、今回感じたことを思い浮かべながら取り組みたいと思います。

フォーラムに向けての準備から当日の発表・WSを通して、愛媛県内で取り組んでいる「とびだせ建築士」が全国的には実は大変良い取り組みであり、他県の建築士会でも同様な活動を企画したいと思っているという話も聞けました。

これからも細く・長く・たまには趣向も変えながら？継続して活動することの大切さを学ぶことができる良い機会となりました。

青陽委員長、西森さんほか関係者のみなさん大変お世話になりました！



〔地域実践活動発表〕



〔道後温泉での活動風景〕

## 一言感想

<p>会場の音楽堂コンサートホールでは、大会式典に先立ちパイプオルガンでバッハの『トッカータとフーガ二短調』が演奏され、その荘厳な音色に圧倒されました。式典では、伝統的技能者として周桑支部の曾我藤夫氏、また実践活動の優秀者として愛媛県青年部が表彰され、3,500名の参加者から盛大な祝福を受けました。</p> <p>邦楽ホールの特別講演「伝統と文化のまちづくり」では金沢の魅力を再発見しました。</p> <p>『保存と開発』『伝統と革新』これらの難問に金沢市のトップリーダーとして取り組んで来られた山出 保氏の行動力に感服すると共に、会場からの質問に対する謙虚な受け答えにすばらしい人間性を感じました。</p> <p>ヘリテージマネージャー大会では、伝統建築文化をいかに保全し継承していくべきかなど、その役割や職人との連携が発表されました。建築士会の担うべき立場について、司会の後藤 治教授が、明確に解説された事に感銘を受け、日々感じていたもやもやが晴れた気がしました。</p> <p>来年の大分大会も楽しみです。</p> <p style="text-align: right;">新居浜支部 越智 省二</p>
---



ひがし茶屋街

<p>全国大会では、ヘリテージマネージャー大会に参加し、興味深い話を聞くことができました。</p> <p>金沢は駅も街もきれいで、建物も見学したいものが多くありましたが、時間が足りませんでした。総じて、有意義な全国大会本部ツアーだったと思います。</p> <p style="text-align: right;">新居浜支部 白石 公成</p>
---

<p>生まれて初めての北陸地方へ行き、大会についても別会場でモニターで見せてもらい、話している人や表彰される人の顔など、はっきり見えて良かったです。また、金沢市内もいろいろ見学させてもらい、いい建物を見ることができ、地元にはないものがたくさんあったように思います。</p> <p>いい思い出ができたことを感謝します。</p> <p style="text-align: right;">西条支部 国宇順一郎</p>
---

<p>今回は、愛媛県支部より約40名の参加者が石川大会に出席されました。</p> <p>西条支部よりは11名の参加でした。</p> <p>全国大会は、4回目となりますが、このような大会がないと北陸石川県にはまず出向くことはないと思います。</p> <p>大会前日には、懇親会などもあり大変良かったです。今まで行った大会会場より会場規模が少し小さくて記念式典は、会場が3ヶ所に分かれ本会場では見ることが出来ませんでした。</p> <p>西条支部より参加してくれた初めての人には、本会場にて式典を見て欲しかったと思いました。(モニターで見るのと会場の違いがあると思います)</p> <p>又、愛媛県支部の方が表彰されおめでとうございます。</p> <p>大会式典後の懇親会では、ホテルの宴会場にて行われましたが、催しは、見れず残念でした。(人が多く)</p> <p>最終日には、金沢21世紀美術館、兼六園などを見学し大変良かったです。</p> <p>北陸は天候が変わりやすいのが実感できました。</p> <p>天候もまずまずで、良い全国大会でした。</p> <p>バスガイドさんも、最高でした。</p> <p>全国大会に出席された皆様次回は、九州大分県別府市です。</p> <p>来年も、全国大会に参加しましょう。</p> <p>又、今回参加されていない建築士会の会員の皆様、次回は近場なので、参加しましょう。</p> <p style="text-align: right;">西条支部 野口雄司</p>
---

支部 11 名で参加した石川大会は、支部仲間の結束が固められたのはもちろんのこと、他支部も含め参加者と懇親を深めることが出来、有意義だった。長時間のバス移動も、ガイドさんの経験豊かな話で楽しかった。

松山と同じくらいの人口の金沢駅のもてなしドームや地下広場の大きさに少し考えさせられるものがあった。機会があれば、また参加したいと思っています。

西条支部 元根衆三郎



懇親会

会場の石川県立音楽堂コンサートホールの音響の素晴らしさ、特にパイプオルガンの音色には、感動しました。

こんな素敵な大会での表彰を非常にうれしく思っております。

ありがとうございました。

今治支部 吉武 則幸

このたび第 58 回建築士会全国大会石川大会に於いて伝統的建築技能者表彰を戴きました。

親子二代にわたり、この栄誉ある賞を戴き身に余る光栄と心より感謝しております。

これからも世界に誇る日本の伝統的建築文化の技術を未来につなぐ為、微力ながら精進したいと思います。

周桑支部 曾我 藤夫



伝統的技能者表彰（曾我さん）

3 年ぶりの北陸でした。

天候の悪さも実感し、日本海の荒波・強風思い出しました本会ツアーでの参加、飛行機・バスツアー、1 年振りの他県士会員との交流も出来楽しませていただきました。

来年度開催の海を介した隣県の大分大会もまた予定に入れて参加出来ることを楽しみにしています。

今大会で受賞の 3 名様に改めて、おめでとうございます。

松山支部 赤根良忠



宇和島支部のみなさん



実践活動発表（西森さん）

大会会場の便利さに感心しました。初めての石川県でしたが、街づくりの良さと歴史を感じる3日間だったと思います。又、ごいっしょさせていただいた皆さんとも交流ができ、楽しいお勉強をさせていただきました。

松山支部 小原 文子



金沢駅

情緒と歴史と文化の街、金沢で沢山の方と交流ができました。特に「第3回ヘリテージマネージャー大会」に参加して「金沢職人大学校による伝統建築の保全」「能登地震時の建築士と職人との連携」の事例報告には感銘を受けました。

大会式典の閉会前に退場者がいなかった事は、運営して下さった関係者にお礼申し上げます。

金沢の町並み・兼六園・金沢懐石料理を堪能し、帰路に着きました。

松山支部 大上 恵子

今年は、連合会会長表彰をいただきまして、受賞者としての参加でした。

皆様のご指導のおかげです。ありがとうございました。

石川大会、盛況でした。そして青年委員の地域実践活動の発表で、西森委員さんが2位に選出されるという素晴らしい成績。おめでとうございます。

会員相互の親睦もはかれて、有意義な大会でした。

松山支部 武内 邦彦



連合会長表彰（吉武さん、武内さん）



集合写真

44年振りの金沢、その変貌振りに目を見張りました。

今回の旅行では10年前（2004）、建築学会の建築技術講演会「建築と地域文化」－金沢市民芸術村の誕生と金沢文化の伝統（歴史と創造）について、と題する金沢工業大学水野一郎先生の講演のメモが役に立ちました。「戦災を免れた5つの都市の一つで、全ての時代の層がバウムクーヘンのように重層化されて残っている町であり、アンアン、ノンノを持って若い女性が訪れるようになると、一周後のトップランナーとして一躍脚光を浴び始めた」との解説通りの町であることを実感しました。又、前金沢市長の講演の中でも「今と昔が混在する町」という表現がありましたが、【昔】を観光資源とし、【今】新幹線の開業で名実ともにトップランナーになったと思いました。

松山支部 二宮 廣史



金沢素踊子

中途退場者の出ない方法が取られた今大会の式典は、大変良かった。

大会の朝、分科会までの時間に、花岡委員長（文化財・まちづくり）のご案内で、長町武家屋敷跡を見学できたことは予定外の学びだった。

兼六園もさることながら、皆さんにぜひ見学して欲しかったのが、同敷地内に在る「成巽閣」（1863年造営の重要文化財）。33年前初めて訪れ見学し、その感激を現在も忘れ得ぬ私なのだ。（3度目の金沢紀行より）

松山支部 二宮 初子

今回、2年ぶりに全国大会に参加させて頂き誠に有難う御座いました。

私事ながら大震災以後、建築士会の活動に於いてお役に立てない事誠に申し訳なく思っております。しかしながら、ご参加されました皆様の温かい御言葉、御対応に感謝すると共に御礼を申し上げます。

今大会で得たものは、当然ながら金沢の魅力も十分満喫する事が出来ましたがそれよりもご参加されました愛媛県建築士会の皆様の温かい気持ちを頂戴する事が出来た事がこの旅に於いての収穫でした。

また、青年委員会の実践活動事例発表では立派な成績を収められ誠にめでとう御座います。

最後になりましたが、大会の参加に向けご準備を頂いた愛媛県建築士会事務局の皆様にお礼を申し上げます。“ありがとうございます。”

松山支部 山田 宏

全国大会前日に開催された第6回青年建築士フォーラムに参加しました。

全国ブロックの中四国代表として発表した西森さんは堂々として格好良かったです。

石川大会は愛媛より70名参加しました。北陸という遠い場所にも拘わらず大勢参加してくださり、ありがとうございました。

金沢は、雨が降ったり止んだり傘の手放せない街でしたが、風情のある素敵な場所でした。

事務局 西岡こずえ



大交流会

## 第7回いまばりのまちをつくろう絵画コンクール 「今治のまんなかにこんな建物があったらいいな！」開催報告

今治支部 地域実践活動委員会委員長 曾我部 準

今治支部では毎年『いまばりのまちをつくろう絵画コンクール』を開催し今回で第7回目を数えます。今年のテーマは再び中心市街地に目をもどしてサブテーマを「今治のまんなかにこんな建物があったらいいな！」とし、7月上旬に市広報と教育委員会を通じて作品を募集したところ、今年の応募作品数は299点と昨年より少ない結果になってしまいました。これはパンフレットの配布が7月に入ってからになってしまったことが原因で募集時期の読み違いが影響したと推測しています。来年は6月末までには各校に周知するようにしたいと考えています。



募集締め切りは9月3日（木）、審査会を9月10日（木）に市民会館大ホールにて特別審査員10名と支部有志により入選20作品を選び、その中から特別審査員賞12作品を決定しました。今年地元協賛企業6社より特別審査員賞を設定していただき審査会にもご参加いただきました。



展示会は11月14、15日に審査会と同じ今治市民会館2階の大会議室にて実施、今年は審査会と展示会ともに丹下建築での開催が出来たことに感慨深いものがあります。展示会では応募作品を全点展示するとともに今年も2つの企画展示ブースを設けました。1つは今治出

身の建築家、丹下健三氏の作品を紹介する展示。これらの展示には今治市とNPO法人今治シビックプライドセンター様の協力を頂き、今治市庁舎をはじめとする丹下建築群の模型を1/100のスケールでリアルに配置した形で展示出来ました。2つ目は建築士の日のイベントで実施した「おかしなまちをつくろう」です。こちらも今治支部の活動として定着してきたと手ごたえを感じています。



表彰式は展示2日目の午後に開催。特別審査員賞12作品と入選8作品の表彰の後、支部長賞受賞作品の模型と前支部長による講評を行いました。来場者は1日目雨が雨にたたられふるいませんでしたが、翌日の表彰式には多数の方々にご来場いただきました。今年作品の展示が2日だけでは非常に勿体無いという教育委員会様の取り計らいで、展示会終了後も同市民会館の1階談話スペースにもう1週間延長して、入賞作品と模型を展示することが出来ました。

また、今年の支部長賞模型も支部有志の手による製作で素晴らしい模型が完成しました。展示会で模型に見入ってくれる子どもたちの笑顔や、模型を前に家族で写真撮影をしている受賞者の姿に、また来年も開催したい思いが強くなった今年の絵画コンクールでした。



# 海南寺（今治市宮窪町）実測調査

文化財・まちづくり委員委員会 委員 曾我部 準

去る10月17日（土）に今年2月に予備調査を行った今治市宮窪町の海南寺の本堂ならびに庫裏・客殿の実測調査をしました。現地は大島北ICを1kmほど行った左手、国道からは本堂の南東角に見えます。境内の配置は敷地南東隅にある石段を上がり、山門（一間の二重門）をくぐって境内へ。山門正面奥（敷地の南東）に本堂、山門と本堂を結ぶ通路の北西に庫裏・客殿（一棟）があります。

本堂は方三間、宝形屋根、御影石の基礎石の上に柱立て。向拝部分は葺き下ろし、内陣は間口幅のまま一間半ほど後ろに張り出した形になっています。水引虹梁に波、臺股には龍の彫刻が施されていました。正面の中央は引分戸、両袖に蔀戸が配されており、両側面は引違のガラス戸になっています。

庫裏・客殿は玄関に唐破風の屋根が架けられており兎毛通し（うのけどおし）には鳳凰、臺股には松と小鳥が彫られています。予備調査で小屋裏に上がった時に東側半分と西側半分で使われている材や雰囲気は異なりましたが、平面で見ると祭壇の隣の納戸を境に小屋組が変化しているようでした。過去帳を読み解くと、境内は南に向かって拡張されているので、大きな材で小屋組を構成している西側のほうが新しい時代のもので、細い材の方が古い時代の小屋組であるようです。

以下は、予備調査の時に見せてもらった過去帳の解説結果です。普請関係のみを抜粋しています。

## ■表紙

「文久四子歳三月 現住隆雄代 當院過忒（去）帳」

## ■内容

第七世住職口覺以降の入滅年月日、来歴、功績等を記入

## ■圓乗 文化八未歳（1811）六月五日入滅

「（前略）庫裏石垣井水興隆大般若涅槃像等調之」

この石垣は、南面の石垣、庫裏は現在の客殿の西半分の可能性あり。入滅年から推測し、1800年前後と考えられる。

## ■寛雅 明治九子歳（1876）三月十二日 90才で入滅

「（前略）本堂興隆榮雅附囑而退職榮雅入滅后再住隱居而心雅二讓而后大三島神宮寺住ス當院定雄代帰院年九十而入滅」

一度住職を辞したが、後任の榮雅住職入滅後再度住職に就く。その後心雅住職に職を譲り大三島神宮寺に住む。定雄住職の時に帰院し90才で入滅。

本堂小屋裏の棟札（年号書き込みなし）に住職寛雅の名前が見られるが、2回目の就任も嘉永2年以前であることより、本堂は江戸期の建物と断定できる。

## ■心雅 嘉永二酉歳（1849）閏四月十二日入滅

「（前略）客殿再建院室禪定院初世安達道具等調」

この客殿再建は、圓乗住職の時のものを解体して建て替えたのか、東半分を増築したのかは不明。いずれにしても現在の客殿も江戸期のものと推定できる。

## ■隆雄 明治廿亥歳十二月（1887）大陰十月十九日入滅

「（前略）客殿葺カヘ庫 再建南東石壇ツク（後略）」

客殿の屋根の葺き替えと、山門への石段を整備したものとされる。

## ■定雄 昭和十三年（1938）六月四日遷化ス 85才

「（前略）本堂移轉山門新築」

本堂を現在の場所に移築し、現在の山門を新築したと思われる。

これらの事から、本堂並びに庫裏・客殿ともに江戸時代のもので100年以上経過した建物であることは間違いないといえます。しかし、構造体はしっかりした印象をあたえるものであるし、何よりも地元の由緒ある寺院であるので、時代に合わせた改修を施して後世まで使い続けて欲しいと思いました。今回私たちが作成した図面がその一助になれば幸いです。

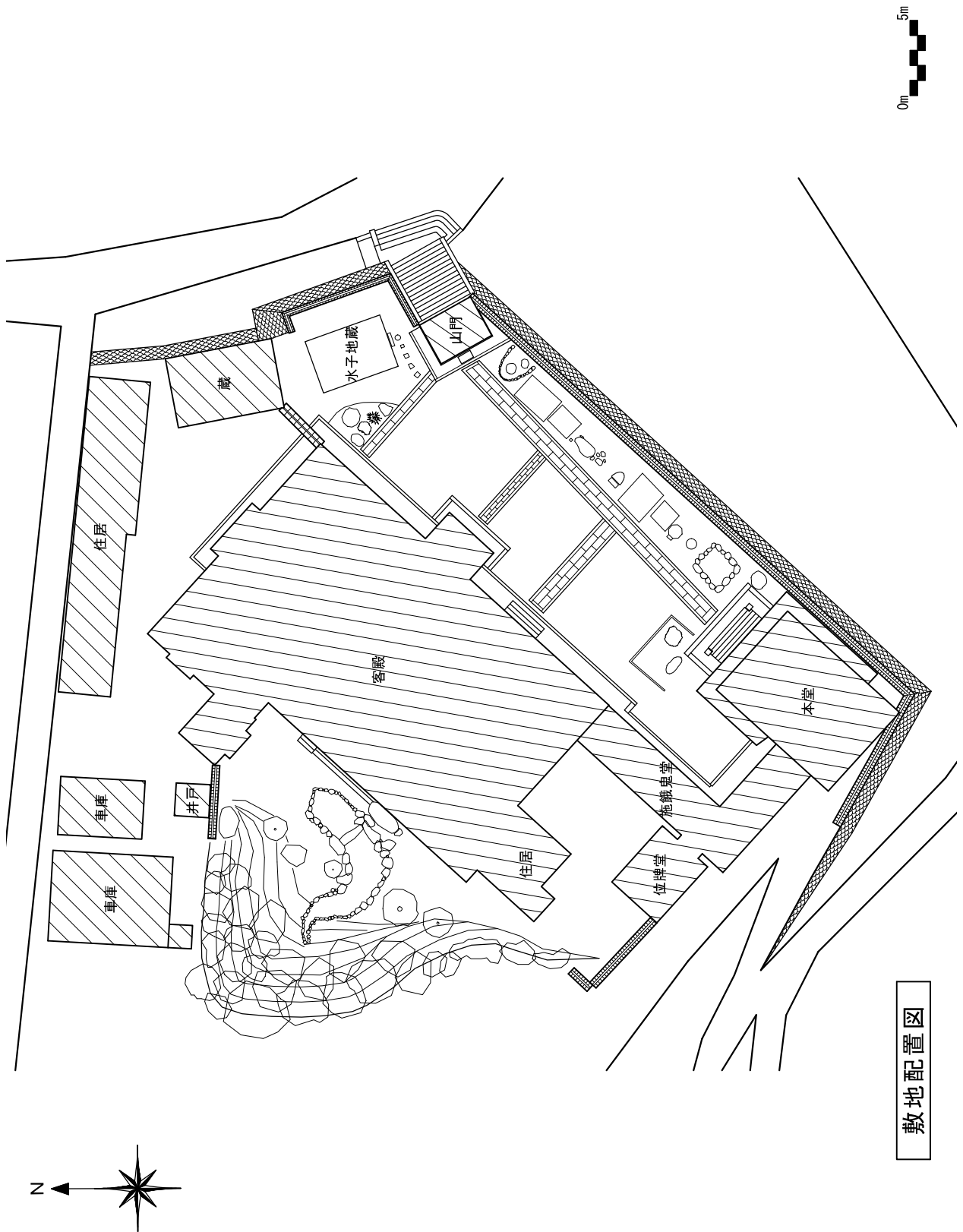
調査年月日：平成27年10月17日（土）

調査場所：海南寺（今治市宮窪町宮窪）

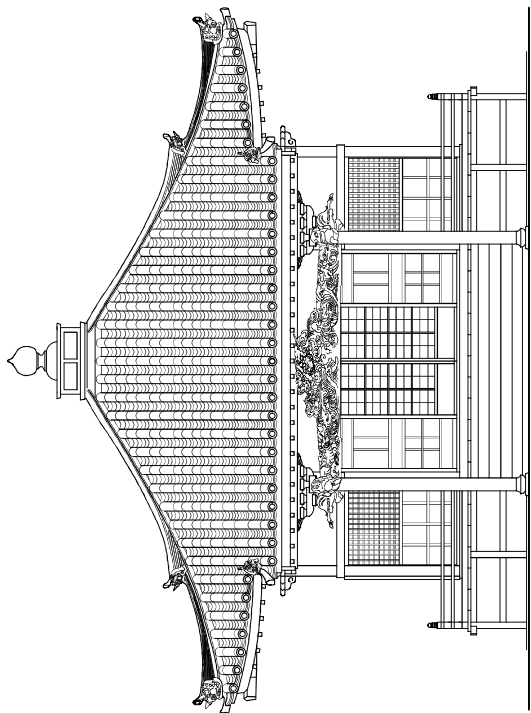
測量・図面作成

花岡直樹（委員長）、花岡晶子、若松一心、峰岡秀和、白石耕平、波頭陽一、曾我部準

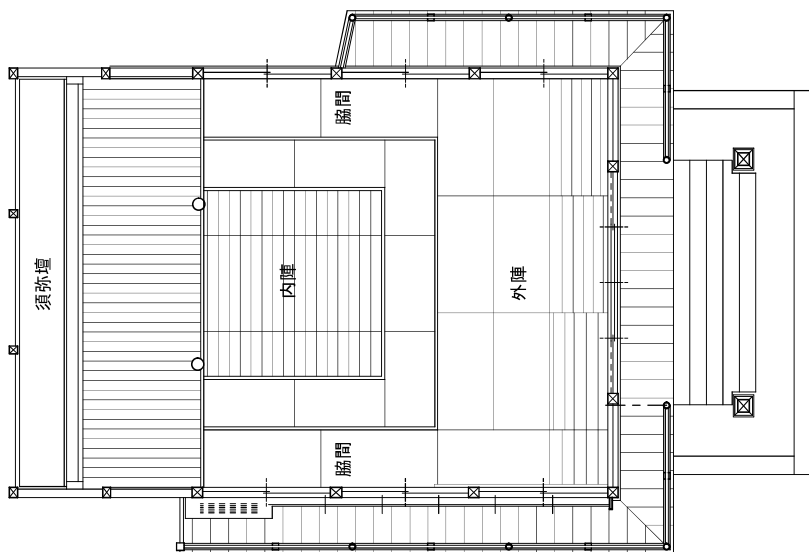




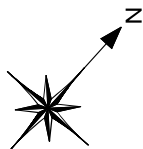
敷地配置図

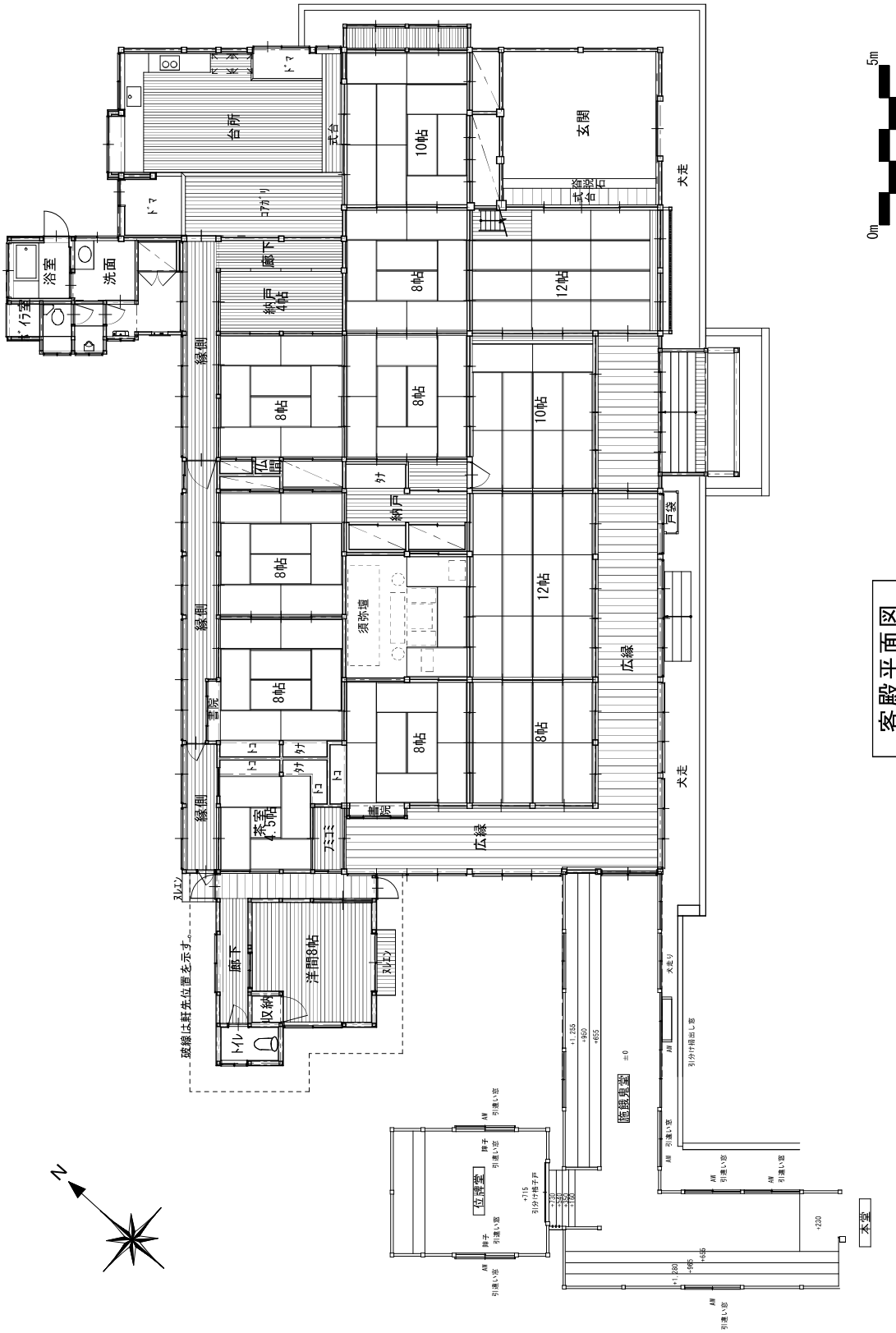


本堂東立面図

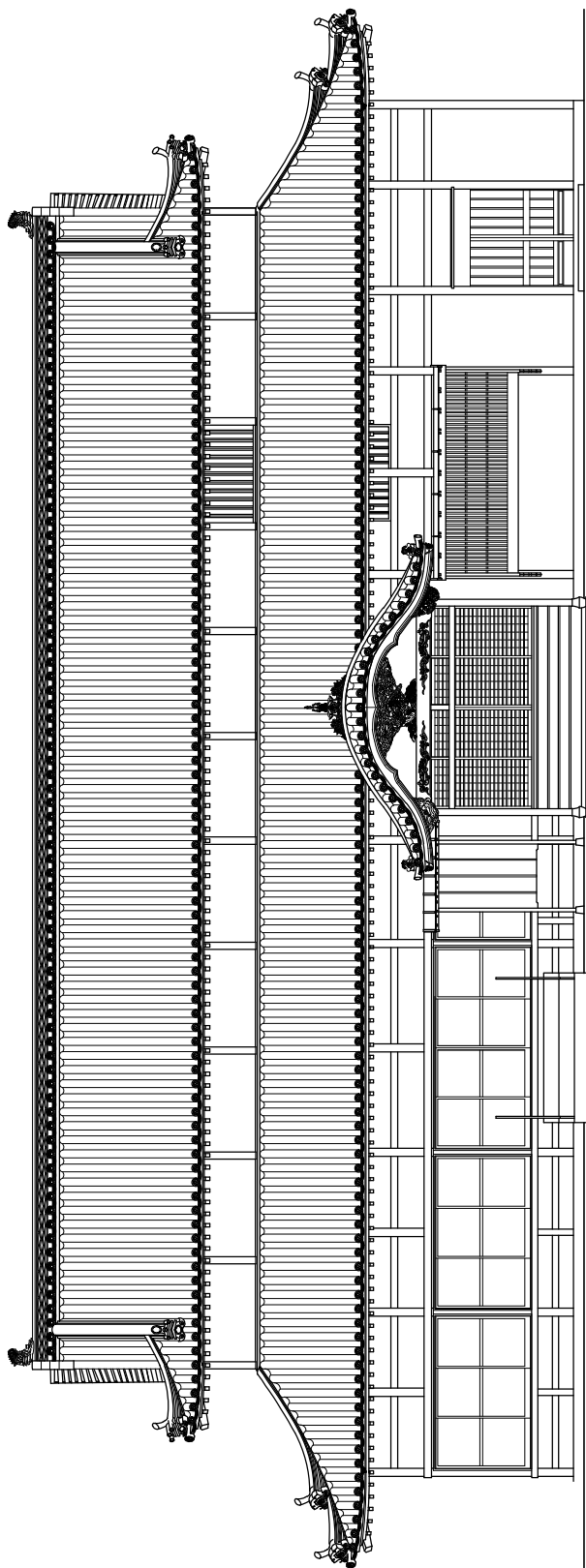


本堂平面図

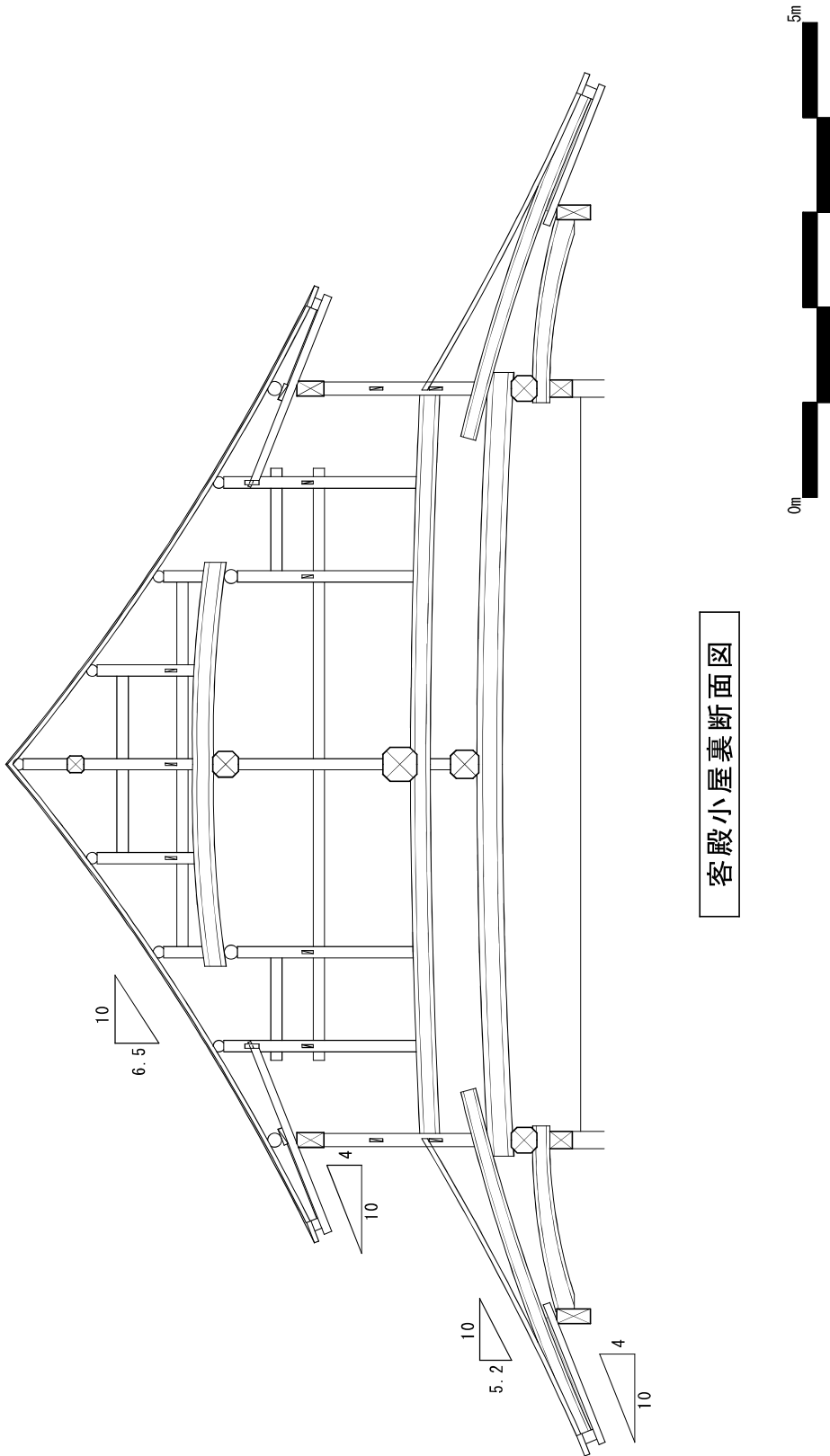




客殿平面図



客殿南立面図



客殿小屋裏断面図

# 若手建築士(志)交流会デビュー! In 山口

松山支部 白石 萌子

開催場所：山口県湯田市  
開催日：平成 27 年 9 月 26～27 日  
参加者：5 人（青陽・松本・近藤・生熊・白石）

建築士会のイベントに初めて参加させて頂いたのは高校生の時の「飛び出せ建築士」というイベントでした。友人たちと、松山地方気象台を見学させて頂いたのは、約 3 年前になります。

今回、一泊二日の泊りがけでの「交流会」は初めての経験で、この 2 日間はとても高揚した気持ちになりました。ホテルで行われた開会式の後、瑠璃光寺（国宝）を見学しました。瑠璃光寺は、1431 年に建設された立派な檜皮葺きの五重塔でした。また、周りの雰囲気は庭園のようで、とても落ち着いた雰囲気が心に残るものでした。

萩往還では、実際に幕末の志士である高杉晋作や吉田松陰が歩いた一部の道を歩かせていただきました。私は、交流会に集まれた方の中で、最も年齢が若いにも関わらず、途中でリタイアしてしまいました。この道は、全長約 53 km のうちのわずか 2.7 km という短い距離であったにも関わらず、私の体力を大幅に消耗させるほどの厳しい道でした。また、地面は石畳で施されており、周りの景色と調和した環境がとても心に残りました。もう一度、行く機会があれば雨の日や時間帯が異なる日に行き、それぞれの変化を見てみたいと思いました。

江戸時代の志士たちは、江戸に向かうために厳しい道を通りながら、道の途中にある六軒茶屋で心や体を休めていたのかと思うと、この厳しい道の歴史もとても深いものだと感じました。また志士たちは、この道を歩くことで、心と体を鍛え、自らの誇りを持つ生きた証を表すような道だと感じました。



国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている佐々並市を散策しました。萩往還の一部でかつては宿場町として栄えたようです。見晴らしの良い場所から一枚パチリ。独特のオレンジ色の瓦が印象的な街並みでした。

懇親会では、普段は交流する機会がない方や、県外の建築士の方々と



交流することができました。他県ならではの話や、地元のおすすめ建築などの話をたくさん聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。「玉突きスリッパリレー」にも参加させていただき、全く戦力にはなれなかったのですが、お土産も頂けてとても楽しい思い出になりました。

2 日目には山口旧県会議事堂を見学しました。昔の知事室や会議室を見学することができ、当時の知事になったような気分を味わえます。午後からは岩国市の錦帯橋を歩きました。



午後からは岩国市の錦帯橋を歩きました。

1950 年に流失してからコンクリートの橋になることも検討されたようですが、依然と同じ木造の橋で再建されたようです。江戸時代には人々の生活を支える橋だったのだと思うと、歩きにくいアーチも流失しないためには重要だったのだと改めて感じました。

今回の交流会で、多くのことを学ぶことができとても有意義な 2 日間となりました。また、誘ってくださった松本さんや交流会の場でお会いできた皆様へ深く感謝のお言葉を申し上げたいと思います。

# ソフトバレーボール大会 優勝 報告

四国中央支部 井原 誠

11月14日、恒例の支部対抗ソフトバレー大会が伊予市双海町で開催されました。

当日の天候は雨。屋内競技のため天候はあまり関係ないのですが、県内在住ながら初めて訪れた双海町、雨空ではありましたが道中の海岸線からみえる景色は噂通りの眺めでした。夕暮れ時を見られなかったのが残念です。

今年の大会は県内各支部から15チームがエントリーし過去最高の参加数となったそうです。四国中央支部も初の2チーム参加で試合に臨むこととなりました。



〔優勝 四国中央Bチーム〕

毎年練習開始の時期は区々で、今年は遅めの7月始動となってしまう既に体育館がサウナ状態で始めたため参加人数もポツポツといった具合でした。まあいつもの事ですが・・・ホント苦労します(^.^)。そんな我が支部の練習は、珍プレーの連続によってバレーの腕前より腹筋が鍛えられる不思議な練習を取り入れており、汗よりも笑い過ぎによる涙を流しながらの過酷なものです。

さあ試合が始まりました！開始早々、レシーブはバッチリ！ナイススト！の後、お約束の見事な空振り！練習どおりのプレーを披露し一気に緊張が解けました。本人曰く皆を和ますためのものだったそうで、今日一のファインプレーと認定しました。

その後は普段どおり？の力を発揮し2連覇という結果を残すことが出来ました。

近年、参加して思うのは大会に参加される皆のレベルが上がってきており、どのチームも実力が拮抗してきた



〔四国中央Aチーム〕

と感じます。負けないように更なる秘密特訓を重ね再度優勝旗を持ち帰りたいと思います。

大会の開催にあたりご準備等の大会運営をして頂いた青年部委員の皆様はじめ伊予支部の皆様ありがとうございました。大変お世話になりました。



〔↑準優勝 伊予支部〕 〔↓3位 周桑支部〕



〔↑新居浜・今治支部チーム〕 〔↓西条支部〕



〔松山Aチーム〕

# ソフトバレーボール大会報告 (最下位チーム)

宇和島支部 亀岡 泰治

今年も恒例の支部対抗ソフトバレーボール大会が、11月14日に伊予市南海町「伊予市しもなだ運動公園：しもなだ体育館」にて行われました。

まずもって、今年の準備をされた中予支部の皆様、スムーズな運営お疲れ様でした。宇和島支部のメンバー共々、感謝の気持ちです。



〔宇和島支部メンバー〕

ソフトバレー大会を始めて、何年になるか分かりませんが、今年、宇和島支部は、「勝つぞ！！」の気持ちと「団結！！」の旗の下、支部長、副支部長以下、2チーム、14名のメンバーで参加させて戴きました。(年々支部の参加者が増えてきています・・・ありがたいことです)

成績は、宇和島Aチームは、支部としては好成績の第十位！！宇和島Bチームは、・・・まあ、例年の定位置、最下位でした。なんか、毎年原稿を書いている気がします(笑)

しかし年々支部の参加人数も増え、急遽、怪我等の欠席を除いての、2チーム編成！！支部の雰囲気はよく、年々盛り上がってきています。メンバー同士の活性化につながっていると思います。後は、勝利につながるとさらに良いのですが・・・。

大会終了後は、当日、打ち上げを行いました。盛り上がりました！！

大会の話題が尽きませんでした。来年は、上位を目指して、そして、「脱原稿！！」を目指して宇和島支部は



〔西予支部の子供たち〕

頑張りたいと思います。

最後に、参加した皆様お疲れ様でした。来年も頑張りましょう。



〔↑八幡浜支部〕〔↓大洲支部〕



〔↑愛媛建築住宅センターチーム〕〔↓松山Cチーム〕



〔松山Bチーム〕



# 支部対抗ソフトバレー大会について

松山支部 渡邊 道彦

松山支部 B チームを代表して、今回の支部対抗ソフトバレー（以下レクバレ）大会についてご報告させていただきます。

まずは、大会準備から運営にご尽力いただいたスタッフの皆様へ、感謝申し上げます。ありがとうございました。今回の大会は双海下灘体育館において、近年では最多の 15 チームが参加する盛大な大会となりました。松山支部としても、昨年から参加人数が増えエントリーチーム数を増やした事で、昨年のリベンジを目標に共に練習してきたメンバーとの袂を分かつたなければならない苦渋の選択に悩まされましたが、結果として松山 C チームが第 5 位と健闘いたしました。

私たち松山 B チームとしては

まず対戦組み合わせの抽選で、昨年に引き続き、初戦の対戦相手に今大会の準優勝チームを引き当ててしまう私自身のくじ運の無さを、この場をお借りしてチームメートにお詫びさせて下さい。

初戦は果敢に挑んだ末の見事な敗戦でしたが、その後の敗者復活戦を順当に勝ちすすみ、1 敗 3 勝で第 9 位と充実した内容で大会を終える事が出来ました。

我々のチームは幅広い年齢層の男女混合チームであり、数年前までは、最下位争いを演じていたチームでしたが、近年の健闘ぶりには強豪チームの方からも賞賛のお声をいただいております。

もし申し上げさせていただけるなら、チームの躍進は、練習への意識の変化だと思っています。

レクバレとは言え、相手に手加減されてるままでは惨めだし、参加している自分達が楽しめないのでは続かないかも？との不安な時期を経験し、もっとレクバレを楽しみたい思いでチームメートと共に地域のレクバレチームの練習参加を継続し、「金曜日はバレーの日」を公言して、会合などの日程を調整してもらえるように日々訴えてきました。レクバレ中心の 1 週間をおくるようになり、私を含め学生時代はバレー経験の無かったメンバーも、既にレクバレ歴は長く、強烈なスパイクを打たれても悲鳴を上げるような女性メンバーもいません！



65歳の先輩現役メンバーからの教え  
『どんなに劣勢でもボールを相手のコートに返してさえいれば負けることはない』

との言葉どおり、百戦錬磨のアタッカーがいるわけでもない我々が、勝利を手に出れるようになったのは、おそらくは、それぞれのメンバーの特徴を皆が共有し、信頼し補いながら試合に臨めるようになってきたからだと思えます。

個の力が劣っていても全体としてはそれ以上の力になる事が実感出来る今は、レクバレが楽しく、毎年この大会が楽しみで、アラフィーにして青春しております。そして、試合が終わりネット越しにお互いの健闘を称えあう言葉や握手を交わすのは、とても気持ちのいい瞬間です。一年に一度しか顔は合わせないけれど仲間意識も芽生え、レクバレしてる人に悪い人はいないような気がします。



また、強豪チーム同士の息をのむ真剣勝負の試合を観戦するのも楽しみで、目が覚めるような強烈なスパイクや神がかり的なレシーブを間近で見られるのは、ちょっとした感動ですし、51歳の自分も、いつかコートからの景色を見る漫画の主人公を夢見る少年の気分になっていました。

昨今のラグビーワールドカップ日本代表が、世界中のファンの心をつかんだようなジャイアントキリングをこのチームで実現させてみるのが夢であり目標として、来年の大会に臨みますので強豪チームの方々は、我々が相手だからと言って油断しとると、足元をすくわれるかも知れませんよ…

PS. 今回の大会を次回に活かせることがあるとすれば、天候が悪い場合のお昼の食事場所の確保が出来る事と、欲を言えば、各チームのモチベーションも盛り上がってきていますので、試合数によっては、物足りなく感じているチームもあるようなので、運営は大変かもしれませんが、工夫次第ではグループリーグ制を導入したり、老若男女が楽しめる本来のレクバレの意図には反するかもしれませんが、メンバー混成制限を設けるグループと制限なしのガチのグループとに分ける方法等も検討していただければ、もっと楽しい大会になるのではないのでしょうか？

# みなとびらき 八幡濱港拓2015における 子どもガイドの育成

八幡濱支部、女性委員会 眞田井良子



身近な存在の建築やそれを取りまく環境に関して、楽しく分かりやすく学ぶ機会を設けたいと考え、子どもたちを対象にした「こども・けんちく学校」を継続して行っております。

今回は、港を中心に栄えた八幡濱市のいろいろなところを同時に拓いて、貴重なものを見たり、生業に関係した内容の各種体験をしていただくことにより、来場者の方々に八幡濱の魅力を知り、交流人口の増加を図ったり、子どもガイドの育成を通じて、より地域への誇りと愛着を育みました。



当日は市内各地を子どもガイド付きの専用貸切バスで巡り、港を中心に栄えた八幡濱の歴史に触れ、その魅力を再発見しました。また日土小学校の一般公開にあわせ、市内に残る松村正恒氏設計の小学校+技手・木村保一氏設計の日土東小学校を公開しました。たくさんの人に

来て見てもらうことで、自分たちのふるさとに多くの魅力的な建物が残っている素晴らしさを体感することができました。



今回のガイドに参加してくれた子どもたちには、「八幡濱 観光大使」として任命証を授与させていただきました。

この事業の実施後、日土小学校の4年生が、総合的な学習の時間で「日土小 観光大使になろう!」という学習を始められた他、白浜小学校の6年生が、学校の近くにある「八幡濱第一防空壕」「梅美人」などのガイドが出来るように学校の授業の中で取り組みを始められました。このような取り組みが少しでも広がるよう、継続して活動を行ってまいりたいと思います。

## 【こどもガイド研修会の概要】各現地にて

一回目 建物について知ろう!

時間：13:30～15:30

内容：プロからガイドの方法を教わりました

二回目 ガイドの準備をしよう!

時間：13:30～15:30

内容：ガイドの内容を組み立てました

三回目 ガイドの準備をしよう!

時間：13:30～15:30

内容：ガイドに必要なものを作りました

四回目 ガイドのリハーサルをしよう！  
 日時：7/18(土)13:30～15:30  
 内容：ガイドのリハーサルを行います

五回目 ガイド本番！  
 日時：8/9(日) 9:00～12:00

### 【八幡濱<sup>みなとびらき</sup>港拓2015】の概要

開催日時：2015年8月9日 9:00～16:00  
 開催場所：川之内小学校、長谷小学校、日土小学校、日土東小学校、浜之町、商店街、保内、駅前、八幡濱みなと など  
 講師：(公社)日本建築家協会四国支部幹事 武智和臣  
 菊池清治邸を活かす会 岡崎直司  
 八幡浜市教育委員会生涯学習課 宇都宮奈乃



主催：八幡濱港拓実行委員会  
 ((公社)愛媛県建築士会女性委員会、愛媛県建築士会八幡浜支部 他)

【子どもガイドとして活躍してくれた子どもたちの学校】  
 日土小学校、千丈小学校、松柏中学校、八幡浜高等学校

### 【当日の参加者数】

延べ参加者人数(推計)：1000人程度  
 スタンプラリー参加者数  
 港拓賞(完走賞)：6名  
 参加賞：14名

### 【参加者の皆様の声】

- ・八幡濱のことがよく分かった。また次回も参加したい。
- ・各場所のおもてなしに感謝！
- ・今と昔の建物の違いがわかって良かった。
- ・良いものが見られる良い機会となった。

### 【拓いてくださった皆様の声】

- ・久しぶりに学校に子どもたちをはじめ人の声に戻り、嬉しかった。(日土以外の小学校)
- ・優れた学校建築が複数残っているということは八幡浜の強みだと思う。活かして行ってほしい
- ・良い取り組みだと思うので、八幡浜の活性化のためにも今後も継続していきたい。



# 異業種 プラス防災意識 勉強会報告

女性委員会 担当委員 西浦郁子

開催日 成27年9月4日（金）

場 所 松山市内 林業会館

参加者 17名

「いつ起きてもおかしくない巨大地震」に備えて私達建築士は、まず減災を呼びかけることが第一の役目だと考えます。次に、何かの時に身をまもる防災知識が加われば頼もしい建築士になれるのではないのでしょうか。

そこで、以前から女性防災士として活躍されている小国恵子さんに講師をお願いしました。彼女は女性目線で年齢や立場に応じた防災活動、高齢者対象の非常持ち出し袋の提案、災害時のトイレ講習会等の周知に取り組んでおられます。

## 勉強会内容

### 1. 防災ドリル

これは、インターネットで誰でも体験できるクイズ方式です。一般的な知識が自然に身に付き、とても為になる情報だと思います。

例えば、自宅に備蓄されているツナ缶。蓋を少し開け、ティッシュのこよりを差し込み、油がしみたら火をつけランプとして活用。使用後は食しま

す。

明かり、水、寒さ、トイレに関するクイズです。

### 2. 用途広く物を活用

新聞紙で食器やスリッパを作ってみる。

スーパーの買い物袋でベストを作る。

エマージェンシーシートで暖まりを体験。



一方的に講義を受けるのではなく、クイズの答えを考えたり、食器を作ってみたりと自分で体験することは、いつまでも覚えているものです。1時間半の時間もあっという間に過ぎてしまい、まだまだ習い足りないことが沢山です。これを機会に、身に付く防災知識をまず自分達が学び、建築士としての減災（地震に負けない耐震アドバイス）、プラス防災の周知ができればと思います。



# 平成27年度第25回 全国女性建築士連絡協議会報告

女性委員長（松山支部） 大塚 美由紀

開催日 平成27年9月25（金）～26日（土）  
場所 東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター

大会テーマ 「未来へつなぐ居住環境づくり」～次世代へ伝えたい、こと・もの・くらし～

全国から約190名（愛媛からは3名）の女性建築士が参加して開催されました。

前年度の全建女から7ヶ月後、また大型連休明けすぐの開催という事もあり、例年より全体の参加者が少なかったようです。

1日目の基調講演は、全建女25回を記念して初代連合会女性委員長の村上美奈子氏が「全建女の立ち上げと居住空間づくり」のテーマで全建女立ち上げに至るまでの話や、当時はマイナーな課題だった高齢化社会やバリアフリーについて女性ならではの視点に基づいての活動などを、自身の背景や社会状況（女性の立場）などを交えながらの講演でした。



〔参加者〕

続いてのパネルディスカッション「未来の居住環境とくらし方」では20代の建築を学ぶ大学生、80代の日本色彩学会名誉会員、バイオ医薬品の研究者を経て現在は広報やイベント運営に携わる会社員、平成26年度内閣府「女性が輝く先進企業」を受賞した多様性のある人材育成に取り組む一級建築士など、広い年齢層の異業種の女性が「くらし方」に焦点をあてながら、未来の居住環境について様々な討論が展開されました。

2日目の分科会は例年通り「震災①防災への取り組み」「震災②ボランティア活動の報告」「歴史的建造物と建物再生」「素材と環境共生住宅」「景観まちづくり」「子

どもと住環境」「高齢社会と福祉住宅」「集まって住む」の8つのテーマでした。前回の全建女から期間が短かった事もあり、テーマに沿った活動報告を用意するのが大変だったようですが、それぞれ熱心に意見交換が進んだようです。

2日間という短い時間ですが、非常に内容の濃い有意義な大会でした。

最後になりましたが、大会に先立って女性委員長（部会長）会議が開催されました。今回は47都道府県が持ち時間1分で各県での活動報告を行いました。（報告だけで1時間弱かかりました）見学会や勉強会等を各県様々な形で行っているようで、防災や福祉、子供対象の事業が多いように感じました。



〔委員長会議〕

また、今後の全建女の開催形態についての検討もあり、土日開催、土曜1日開催、平日開催等の意見が出ました。若い会員や今まで参加出来なかった方の参加を促していけるようになれば良いと思います。

平成28年度は7月22日～23日に奈良県にて開催予定です。たくさんの女性会員の方に参加して頂きたいと思います。



〔分科会報告〕

# 全国女性建築士連絡協議会に参加して

宇和島支部 田中 明美

9月25日から2日間 東京大会に参加してきました  
基調講演で初代連合会委員長 村上氏の全建女立ち上げ  
時の話を聞きました。我が県でも同じようなご苦労が  
あったものと推察し、初代女性委員長二宮氏といっしょ  
に、苦労された委員会の方々の顔が浮かびました。

30数年前は、資格を持っていても女性が建築士とし  
て職に就けなかった話を聞き、男女に関係なく仕事が出  
来る現在？は、先輩女性建築士の地道な努力の上に成り  
立っている事なのだと思います。私も20年程前に建  
築業界に迷いこんだのですが、現場で何か言おうものな  
ら、大工に「オナゴが偉そうな口をきくな」と一括さ  
れ、仕事をほおりだし帰られてしまった事を思い出しま  
した。

パネルディスカッション「未来の住居環境とくらし方」  
のパネリストの一人 日本色彩学会の特別顧問 門田氏  
は年齢80歳で、見た目年齢の若さに驚きました。どう  
見ても60歳位に見え、はりのある声もとても魅力的で  
した。「五感を生かした住宅」についてお話され、配色  
表に指をさしてその手の中に快適色が生まれる「配色の  
手」のカタログをいただきました。1室の中を、さまざま

まな色でまとめた事例を見せてもらったのですが、予算  
に振り回される現場では、ありえないかなとも思いまし  
た。が、配色表は参考にさせていただきます。元気パワー  
もいただきました。

翌日、G分科会「高齢社会と福祉住宅」に参加しま  
した。家族が建築士「父、母、兄、発表者」で、病気で  
障害を持った父の為に改修工事に取り組んだ事例の発表  
でした。専門家の自宅改修物件ということで、参考にし  
ようと選びました。また、病気の発生から改修工事に至  
るまでのさまざまな出来事が、私自身の体験と重なりま  
した。改修内容は、特に参考になるものはなかったので  
すが、自宅で介護できる状況を作り出すことは、当事者  
の回復の手助けとなると改めて確信しました。平成26  
年3月に、日本建築士連合会と高齢者住宅推進機構の協  
力のもとに、市浦ハウジング&プランニング社から、「在  
宅要介護高齢者の住まいのあり方に関する調査事業報告  
書」が発行されました。その中の1例の発表でした。今  
後ますます、高齢者や身体障害者住宅のお金をあまりか  
けない改修が増えていくと思われます。経験を最大限生  
かした改修工事に取り組みたいと思っています。

# 一步の勇気でつながる輪

松山支部 一之瀬 佳緒理

ある日、マルマストリグの河野さんから会社に電話があり、てっきり仕事のことでと思い油断しておりましたら『いしづち』の『けんちくの輪』のご指名でした。なんかこういうこと以前にもあったなあと、半分戸惑いながらも光栄なことですのでバトンを受け取りました！

何を話したら良いのかわからないのですが、とりあえず私が建築士会に入会した経緯からお話ししたいと思います！それは2014年の新規登録セミナーに参加したのがきっかけでした！ほんの数年前までは建築とは縁のない仕事をしており、現在の勤め先以外全く建築関係に知り合いもいませんでした！せっかく念願の建築士になったのだから入会しない手はない！前線で働いている人の生の声が聞きたい！知り合いになりたい！できれば友達になりたい！という気持ちで、毎月送られてくる情報の中からセミナーやイベントに参加していたのですが、その中でも地区ごとに行われている総会に参加したことにより建築士会との距離が縮まったように感じます。もちろん初めは誰がいるのか知るすべもなくドキドキしながら北斗七星（南地区の恒例の場所となっているようです。）の会場の襖を開けたのを今でも鮮明に覚えています。それからは近所ということもあり参加も4回目となりましたが、そこでは何も行動しなければ出会わなかった方々と知り合いになれ、思い切って参加して良かったなと自分の勇気と行動力を褒めてあげたいです。それに私に声を掛けてくださった皆様ありがとうございます！感謝しています！

話は戻りまして、先に少し触れましたが、建築の仕事をする前はといいますとDTPの仕事をしており、マッキントッシュでデザイン系のアプリケーションソフトを使っていました。全く違う職種ではあるのですが、ものづくり（クリエイティブ）という点では変わっていないところでしょうか。

現在3DCADを駆使して提案をしているのですが、前職でのスキルのおかげもあり習得するのは苦ではなく

むしろ楽しく、さらにマスターをしたいという思いで日々取り組んでおります。何と言ってもイメージが形になるのですからこれほどの強い味方はないです！それに加えているいろいろなシミュレーションソフトを利用すれば、かゆいところに手が届く、そんな付加価値のある提案ができると信じ日々模索しています！

その他インテリアに外構、照明、はたまたFP等、建築に関わることは尽きることはないのですが、二級建築士に合格してからはや4年。次は一級建築士を目指すかどうか、それとも今の仕事に直結する知識習得に専念すべきか、、、といった状況です。

士会にはたくさんのすばらしい先輩方がいらっしゃるの、人見知りではあるのですが、時間の許す限りもっと積極的に参加して、1人でも多くの方と交流が深められるよう及ばずながらついていきたいと思います！

今回は南地区でもお世話になっております白石さんがバトンを引き継いでくださったのですが、その先誰にバトンが続いていくのか楽しみです。



H25 砥部にて陶芸体験



H25 奥道後にて



H25 奥道後にて



H25 奥道後にて



梶原町総合庁舎



大洲 少彦名神社

# 少し立ち止まって 振り返ってみようかな。

西予支部 下元 美恵

今治支部の永井さんよりバトンを頂きました。

西予支部の下元美恵と申します。永井さんには、「快くお引き受け下さった・・・」とカッコよく書いて頂きましたが、とりたてて書くこともなく、文才があるわけでもなく、おまけに筆無精。

さて、何書こう？何書こう？と悩んだ結果いい機会なので自分について振り返ってみようと思います。

長崎県の大学で建築を学び、卒業してからは松山市内の設計事務所に就職させて頂き、主に住宅や店舗等の仕事を担当させて頂きました。

30歳までに、一級建築士を取るぞ！！と心に決めていた私は、たまたま結婚の時期と重なり、ある日は結婚式の打ち合わせ、ある時は日建学院。日中仕事・・・

桜が咲いたとも、散ったとも気がつかない生活をしておりました。(設計事務所にお勤めの方ならわかると思いますが・・・)

そんなある日、クライアントの奥様が、庭にあった何気ない花のつぼみを見て、

「あなた、もう花が咲いてますよ。春ですね。」

と、ご主人様とお話されてました。

毎日忙しく、明るい時間に帰ることや、外の風景に全く気がつく余裕のない生活をしていた私は、はっとしたと共に、とてもゆっくりとした、豊かな時間が流れた事を今でも覚えています。

「家」って、「暮らし」ってこういうことか。  
日常の何気ない気づきで、心が豊かになる。

そんな自然な生活いいな。と漠然と感じていた20代でした。

無事、一級建築士となった数年後、転機が訪れました。家業を継ぐため宇和町に帰省。子供も授かり、これまでとは全く違った生活を送るようになりました。

子供のいる生活は、驚きと発見の毎日。また、子供は新たな経験をさせてくれる師匠。子供を通して、新たな出会いをもらったり、経験をさせてもらったり。あっという間に30代も過ぎ去って行きました。

女性の平均寿命は、86歳？ぐらいでしょうか？

あら？半分過ぎた！？・・・

新人の頃、「10年経験すれば、少し建築がおもしろくなってくるよ。」と言われたことがあります。もう十分経っていますが・・・。まだまだです。



40代になりやっと、自分も少し、暮らしを愉しむ時間を作ろうと思ってます。

ふと、花があることで、空間が、生活が、豊かになることをオーナーさんにも知ってもらいたくて。近所の華道教室へ、ポツポツですがリフレッシュとお勉強を兼ねて通ってます。

改めて勉強してみると、華道と建築の関わりの深さに面白味も感じています。建築の世界以外から建築を見る事も新鮮です。

関わりの深さについてはまたいづれ。。

人の暮らしに合わせ、寄り添いながら、お花の楽しみを何百年と伝えている華道。これからも、スローペースですが学んでいきたいと思ってます。

まだ人生の半分？いろいろなご縁を頂いて前に進んでいます。一生続くご縁かも、一生に一度のご縁かも。

「一期一会」の気持ちを忘れず、ポツポツ歩んで行きたいな。と思う40代。

真っ白な半紙に何度でもやり直せる。新鮮さと無になれる、そんな空気感が好きで書かれています。

さて、どんな50代・60代・・・が待っている？



次号は、忙しい 忙しい中。「私で良ければ」と快諾して頂いた素敵女子であり、素敵ママです。お楽しみに



# 専攻建築士（新規・更新）登録 申請受付期間のお知らせ

受付期間：平成 28 年 1 月 4 日（月）～ 2 月 29 日（月）

新規は窓口のみの申請となります。

- ・要件 ①建築士免許取得後 5 年以上の実務実績
- ②責任ある立場での実務実績 3 件以上
- ③直近 1 年間の CPD 単位 12 単位以上取得 となります。

更新は窓口と WEB の申請が選べます。(WEB は会員限定)

- ・更新要件① 2011 年 1 月 1 日～ 2015 年 12 月 31 日に取得した CPD60 単位以上
  - ②資格取得 30 年以上の方で、定期講習または特別認定講習受講者
  - ・専攻建築士の登録期間が切れてしまっている方も更新申請が可能です。
- 申請書や費用等詳しくは（公社）愛媛県建築士会のホームページでご確認ください。

<http://www.ehime-shikai.com/architect/major>

## 情報・広報委員会からのお知らせ

「いしづち」2015.1 月号に、「施主と設計者との“間”」というインタビュー記事が掲載されましたが、実はその時の模様を建築士会会員の山口明久氏が動画に撮って下さっています。約 1 時間の CD ですが、動画には活字にはない雰囲気があります。

この CD を、ご希望の方があれば無料で配布いたしますので、建築士会事務局または私・玉乃井公和（TEL 089-973-8950 . e-mail tama-009@zg8.so-net.ne.jp）まで、お申し出ください。

平成 27 年 11 月 23 日～ 11 月 29 日の間、大洲市の山荘画廊で開催されました「山田きよ版画展」の会場に、山田氏の版画を表紙に使わせて頂いた 9 冊の「いしづち」も展示させて頂きました。

間くところによれば、今年から県下 30 の公立図書館に配布しております「いしづち」を見て下さる方も、チラホラおられるそうです。

という訳で、これから各支部・委員会等の催し物など、何かの機会があれば「いしづち」を登板させて頂ければと思います。よろしくお願致します。



「いしづち」の展示



会場風景



山田 きよ氏（イケメンの方）と



### 版画

題：ポコベン横丁 2004

山田 きよ

【表紙の版画について】

おおよそ赤煉瓦館に隣接している「ポコベン横丁」は、20年前に有志が立ち上げたイベント場で、昔なつかしい物がいっぱい飾られており、昭和の時代にタイムスリップさせてくれる。今では大洲市の有名な観光スポットであり、毎週日曜日には賑やかにイベントが催されている。

2004年「えひめ町並博」に併せて、おおよそ赤煉瓦館の観光用に作った版画ポスター。

表紙作者 山田 きよ プロフィール

- 1959 喜多郡五十崎町（現内子町）に生まれる
- 1980 松山デザイン専門学校卒業
- 1982 広告デザイン会社を退社し、家業の竹材業に就く
- 1988 独学で切りぬき手法のシルクスクリーン版画を初制作  
以後、内子町内子座や大風合戦のポスターを手がける
- 1993 初の個展
- 2003 愛媛県文化協会奨励賞
- 2012 個展回数が 100 回となる

（本名 山田 清昭 内子町在住）

## あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承下さい。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

平成28年 3月号(109号) 平成28年1月21日(休)

※ 校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※ 1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり5枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかも知れませんので、予めご了承下さい。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。

情報・広報委員会

## 読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せ下さい。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛

— FAX 948-0061 —

## 編集後記

「われ十有五にして学を志す」(その頃は映画ばかり見ていた)

「三十にして立つ」(三十過ぎに、することがなくなって設計事務所を始める)

「四十にして惑わず」(厄年のころに、ルイス・カーンの言葉に出会う)

「五十にして天命を知る」(この頃から、訳の分からない講釈を垂れるようになる)

「六十にして耳順う」(今、自分に都合のいいことが素直に聞けるようになる)

と、年の初めに当たり、単なる私個人のここまでの節目をたどってみました。果たして作り終えた“節”が、今の自分をしっかりと支えられる“節”となっているのかどうか。

皆さんも年初に当たり、一度“節”の点検をされてみてはいかがかと。(どうも編集後記とは関係なさそうな。余計なおせっかいかも。)

今年は異業種の方のコーナーを設けたいと思い、考えていると、「お菓子な はなし」だとか「フルーツの里から」「地・水・火・人・器」「髪切り虫の つぶやき」「昔むかし 土の下で」などといった、コーナーのタイトルと職種だけは頭に浮かんでくるのですが、悲しいかな「井の中の蛙」の私は人を知りません。面白い人がいればご一報ください。

(玉乃井 公和)

## 〈いしづち〉2016 / 1

平成28年1月発行

発行人 **会長 寺尾 保仁**

発行所 **公益社団法人 愛媛県建築士会**

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089)945-6100 FAX (089)948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 明星印刷工業株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長 玉乃井公和 副委員長 大上 恵子

編集委員 二宮 初子 宮内 理 越智 麻衣 石丸真智子 小笠原 元 水野日出夫